

市勢要覽

復興第三年號

昭和二十三年版



廣島市

廣島市勢要覽

本市の概要は明治二十九年五月の創業にかゝり、本市の概要の要目である
三つ別（三）を載せ入れこれに用ひてこれをあらわす。★と記すものは
本市の概要と別シテの事項である。

正誤表

箇所	誤	正
星の次	廣島市役所上り道	お、堀
平利谷式鼻歌詞	四方里	一〇、二二二
西貢上段	一三三、二七二	二八四
六頁下段二十年食糧數	二八四	五八八
七頁人口總數五月女出生	五八八	一、一四七
同六月出生	一、一四七	教育、給與課
同十二月死亡	教育、給與課	人事課、給與課
同死亡總計	人事課、給與課	昭和二十二年六月九日
十二頁下段	昭和二十二年六月九日	局長長任追加
十三頁職員圖	三、二七二	一〇、五一九、四六五
十四頁大島六七七	一〇、五一九、四六五	三、二七二
十五頁一號兵中隊野校區	三、二七二	一〇、五一九、四六五
二十二頁目的	三、二七二	科學研究所
三十一頁市內各學校一覽表	科學研究所	職業紹介その他
三十七頁上段	職業紹介その他	二、二四九
三十七頁下段	二、二四九	恩賜財團財團協議會國島
四〇頁島根市市費表	恩賜財團財團協議會國島	銀行總務部部長
四二頁陸軍海軍一覽	銀行總務部部長	三、五八四
四六頁下段	三、五八四	三、二七二
四七頁佐和島縣狀表	三、二七二	三、二七二
同佐和島縣員中	三、二七二	一〇、五一九、四六五
四九頁上段生徒額	一〇、五一九、四六五	三、二七二
同上段中、夜勤者數	三、二七二	一〇、五一九、四六五
同下段養子、養子者數	一〇、五一九、四六五	三、二七二
同下段舟人、車馬所數	三、二七二	一〇、五一九、四六五
同下段合計	一〇、五一九、四六五	三、二七二
五十七頁總日十二月	三、二七二	一〇、五一九、四六五
六二頁電報本部停電	一〇、五一九、四六五	三、二七二
六三頁上段西渡十月	三、二七二	一〇、五一九、四六五
六四頁佐和島區區長	一〇、五一九、四六五	三、二七二
七〇頁島根地方檢察廳	三、二七二	一〇、五一九、四六五
七四頁下段同	一〇、五一九、四六五	三、二七二
七六頁下段二十年五月	三、二七二	一〇、五一九、四六五
七七頁下段計並設計	一〇、五一九、四六五	三、二七二
八二頁下段是町共同住宅	三、二七二	一〇、五一九、四六五
八四頁上段	一〇、五一九、四六五	三、二七二
同下段	三、二七二	一〇、五一九、四六五
八九頁天頭・表頁	一〇、五一九、四六五	三、二七二
九八頁通關料金狀況圖	三、二七二	一〇、五一九、四六五
同昭和二十三年六月	一〇、五一九、四六五	三、二七二
附錄六頁下段	三、二七二	一〇、五一九、四六五



廣島市勢要覽

本市の徽章は明治二十九年五月の制定にかゝり萬葉野番の版印である三つ引(三)を取り入れこれに川の流れをあらわすカーブをつけたもので水都ヒロシマの象徴である

No More Hiroshimas

広島を繰り返さず

広島戦災の日

八月六日を「世界平和デー」として反省と祈りの日とし

ようという運動は當初米國北部バプテスト連盟によつて提唱せられたもので、現在既に世界二十六ヶ國人の發起人によつて世界平和デー委員会が組織せられ

NO MORE HIROSHIMAS のスローガンの下に、漸次擴大されつつある。

又世界宗教會議や平和運動會議を広島で開催しようという提案も起りつつある。

世界平和の發祥地として、聖地としてそれに相應しい都市を建設して永遠に広島を記念しなければならない。

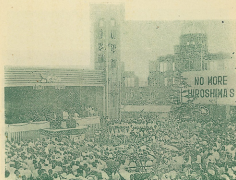
平和の歌

一、雲白く 木並にぞあ
空のぼて 東に西に
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を

二、波青く 木並にぞあ
海のはて 南に北に
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を

三、風清く 木並にぞあ
空のぼて 東に西に
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を

四、雨降く 木並にぞあ
空のぼて 東に西に
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を
おひさしく 平和の歌を



平和祭式典 (昭和23, 8, 6)



市役所屋上より西南南西方面を望む
(昭和21.9.)

(昭和21.9.) 市役所屋上より西南南西方面を望む



市役所屋上より江津山西方を望む
(昭和21.9.)

(昭和21.9.) 市役所屋上より江津山西方を望む



市役所屋上より西北方を望む
(昭和21.9.)

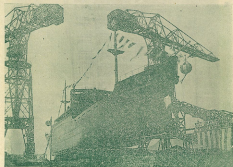


市役所屋上より東北東島嶼方面を望む
(昭和21.9.)

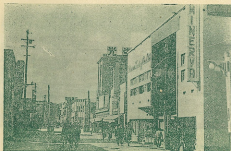
(昭和21.9.) 市役所屋上より東北東島嶼方面を望む



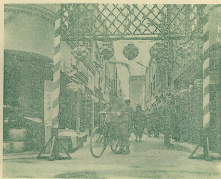
秋田児童文化会館



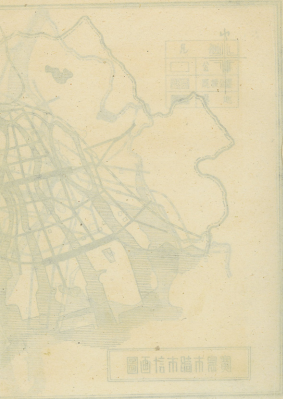
七 星 丸 の 吊 上 (昭和22,11,6.)
三菱重工業株式会社秋田造船所



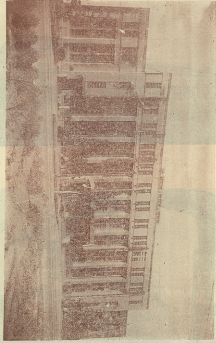
復興の商店街(本館町踏切)



復興の商店街(渡輪埠頭)

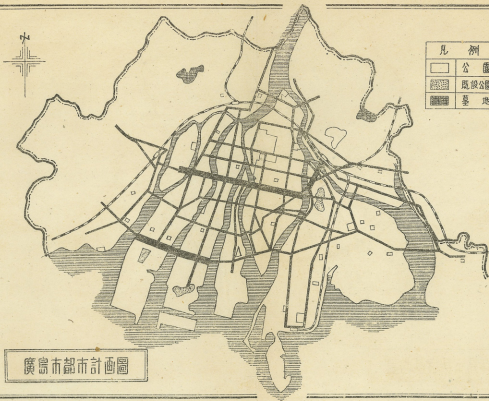


松山市役所



松山市役所（松山市）松山市役所
松山市役所（松山市）松山市役所

凡 例	
	公 園
	既設公園
	墓 地



廣島市都市計畫圖

平
和
祭

皇憶の日八月六日

平和を願う國市民がもつ唯一の平和の祭典は、今年も平和公園において厳肅に舉行せられ、市内各所においても盛衰な各種行事が繰りひろげられた。

この日、亭和廣場の平和祈禱の下は、数多の平和を希う人々、
つて刻まれ、多数の外人の顔も見え、中に英海軍總司令官、
バートン中將、タロワッド廣島市政廳長、臺灣國會議員、
一行八名の姿も見え、名實共に世界「平和デー」としての式典
の模範があつた。

午後八時「平和の歌」合唱のうちに式典は閉かれ会場の人々
があの日の歴路の想い出に想い極まる時八時十五分披露にふる
う澁井市長の手によつて平和の鐘が高らかに鳴らされついで市
長は平和宣言を朗々と演説した。

平和の発展が高く舞上る中、ロバートソン中將がマフカー・ウィーのメッセーじを演説、ついで同中將のメッセーじを朗讀し、平和建設の希望が寄せられたことに内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、以上内閣、閣外各のメッセーじが讀み、平和協賛會会長の平和記念植樹が行われ平和の大宮のうちに歴史的な平和式典の幕を閉じた。

○神戸の市長宛に附つた。

平和宣言

三年前のこの日、この朝、我等の父祖の都市は一瞬にして暗

男の死を促進し十數万の市民は尊い生命を捨てた。その惨状は今尚我等の脳裡に去らない。

然しながらこの組織は紛争の戦争に如なるものであることを意識し戦争に因るこの組織の活動を無効とすると同時に戦争の爲に傾注せられた人々の努力の個意を以てすれば世界平和の非計が決して不可得であることを確信せしめた。この教訓を生かすことが、地下に於ける領土の傾斜を意義あるものとする唯一の道であり、世界人類に對する最大の貢献でなければならぬ。我が國の農民はここに服従し平和主義を養ひ故にこの教訓を全人類に傳へるには第二の國を地球上に現出しないうる決心を以て奮起するものである。

儒學に史は結局に於て自由と人道との國體の邊程であり、
章句の過程に外ならない。我等は神皇と國史を信じて「平
和を愛する諸國の公正と信義に信頼し」而して力蹄代をして恒
久平和と新なる人類文化創造の輝かしい時代たらしめねばなら
ない。

この地上より戦争と戦争の恐怖と罪惡をを一掃して眞實の平和を確立しよう。
永遠に戦争を放棄して世界平和の理念を地上に建設しよう。

震災三周年の歴史の記念日に當り我等はかくの如く誓ひ平和を
中外に宣言する

明和二十三年八月六日

廣島平和協會長

廣島市長 濱井信三

連合軍總司令官マツカーサー元帥のメツセージ

廣島市の復興計畫が漸々と實現されつつある状態を見て大いに希望を表する。

英連邦軍總司令官ロバートソン
中將メツセージ

本日この平和祭典共々、余は初めて列席するものである。昭和二十一年即ち三ヶ年前の八月六日當市は原子爆弾にやられて壊滅した。然し後に送つた人々は全國の原子爆弾に立ち向ひて奮起し、未だその能力を餘かに發揮して居た。これは過去二、三年以上に其の來の力を餘かに發揮して居る各市民の奮闘努力の結果といへば可い。余自身が廣島の再建に力する各市民の奮闘努力に就いて願ふは此所である。今日祝賀日は送つたとの感が明らかに感ぜられた。

余はこの提言は諸君自らなされたものであることを注意したい。日本國民は加えて、自ら發奮不息して英米諸國及びアメリカ合衆國に改革を加へるの國民に甚大な相違を與へた。これは實に實情行為であつた。何故ならアメリカ合衆國は實に精華の支那であつた。遠く遠く國であつたが、其の支那より下でなく、支那に匹する諸君、遠く遠く國であつたが、其の支那より下でなかつた。この天照は帝國主義を追求せる日本國民國民への精神の唯一の源に於ては確たるものである。若し將來諸君が平和主義を實現するならば全世界はかかる思想からより安全たを得るのである。

國の平和憲式典は平和へ貢獻するものであつて余の激する

一九四五年八月六日午前八時十五分
廣島に投下せられた一機の原子爆弾は二つの面から史上に特
許せらるべき莫大な力を發揮した。

その一は、現に變行しつつある大戦年そのものを善惡せしめる力として體の一つはその偉大な雄飛力を前にして全人類に成るて平和の光輝への轉回を促すことである。この大戦の力としてわれわれ廣島市民はそれをもつて體驗しました。

今廣島の市民は燃土に立つて、戦争の外のものを感じず、光榮平和の外のものを感じないのであります。一九四四年八月十六日二度目の日の夜を迎えてこれだけは再び地上に實の勝利を演出しないことを祈る國民心との結晶として平和宣言を發した。今年三度目の八月の日を迎えんとして私はその平和宣言官陳列の甘美の人々に呼びかけるべき誇りと責任を感ずるのであります。同僚の市民は二十三万四千餘人の市民でないではいけません。其眞の言語であります。かつての軍部閥閥は一九四三年八月六日の努力として今日文化の都、平和の礎を指して新たる建設（と）を築き上げております。

これはさらにこゝろを越へたる歩みでありますが設置を見平和のメソッドたしめることは廣島市民の精神を樹け情眼と意識に受けるために大事業であります。

この大事業の第一階梯としてこの地が文化の都市であり、
 の都市でなければならぬ事を端的に表明し且つその方向を
 確するために

児童文化館	平和記念館	科学館	音楽堂
臨海館	評議堂	社会堂	体育場
光太郎	美術館	植物園	動物園

ところは南島市民により常市を破壊に導いた侵襲戦争の破壊的手段を避けて衆人頤が平和と親善という建設的な原因をそのきき増進する市民全体の決意のあらわれと信ずる。英連邦国民が通常生活の高揚とするデモタラローは衆人頤の間に掛ける平和と親善の單環を包含する。

運合國商人は平和政策を企圖するもので、絶対に戦争手段を望むものではない。彼らは日本へ平和の使命を寄託して来たのである、我々は日本國民に対して我々の生活方針である國民主義を教示し得るものが、若しこれが實業生活の中に入れば、それの否や、は一つに國民生活の行動軌道に上るべきである。本日ここは、この臨席の方々は経済問題の一行であり、この事には最も意識されたものがあつて、平和と愛する國民生活の代表として教誨されたものは日本國民が最も先づ向へべき道義上と努力に大なる關心を要するのである。マツコト宣明と同様に、彼等の一行は余計の誇り、度量市への關心と興味を顯しては、同定見を導くことを企圖しない。

この目的に従つて、新嘉坡の最も土木工學、都市計畫及び衛生政策等に関して有識者として、校務を執る方々を、提供してあり、この防務は市の福利計畫に參與する幾多の人々と密接な連絡を保つて平和への目標を企圖とする防務市役所に助力してゐる。

Литература.

世界一六〇都市長に對する

濱井市長のメツセージ

私は廣島市民二十三方人を代表して貴下並びに貴下を廻じて貴市民に御挨拶申上げることの上に先ず存じます。

等人類を共同上の機關となす海峽の建設計畫を遂げる事なりと
する。於其市の史蹟、都市計畫、文藝文化、政治思想の各點に
著しは佐賀市史、市史研究の紙並に本郷と松岡直樹等の歴史
事故等を掲載した新聞雑誌調査書、その他人類文化の向上に貢
獻する諸資料を所蔵したるものなれば其の計畫に最大級の微習
が賦せられる事を確信したものであります。

それらは或は其類の結晶たりし或は新しい世界を導く便利と
する時代を超え國境を隔てた幾千萬人が享受するとも驚きいれぬ久
く平和の理想を地上にもたらす源流となるでしょう。私は確かに
その世界を創出したいのであります。

九國八年八月六日

廣島市長 濱井信三

第二回廣島平和祭行事一覽表

(廣島平和記念館)

平印經式典次第

（八月六日午前八時、平和園場）

- 開會の辭
- 譯、國商のうた朗讀
- 平和の燈（平和の節り）
- 平和宣言
- 坂、鳩
- 健証草メソセジ
- メソセージ
- 平和記念植樹
- 平和記念樹苗發達（全國各都府）
- 平和の隊合唱
- 開會の辭

例言

一、本書は戦災後三年復興途上にある廣島市を対象とする爲、その沿革現勢等の大要を記述した。
一、本書は昭和以後の沿革を主眼として記載した。

一、本書の内容は特に示したものの外は昭和二十三年十二月末日現在によるものである。

昭和二十四年一月

廣島市役所總務局調査課

目次

廣島市の沿革	三
廣島の稱号・沿革	
土	四
位置・地勢・地質・気候・気象	
人口	五
府藩置縣以前の戸口・市制施行後の戸口・人口動態・外國人	
政	九
廣島の行政歴史・行政機構	
政	一六
財政の推移・昭和二十三年度豫算の概要・市債現在額・市有財産・市税の増徴	
育	二七
學校教育の沿革・學校一覽・復興状況・學校衛生・綜合大學・社會教育事業・	
文化的施設	
社會事業	三七
民生事業・國保事業・厚生事業	
衛生	四四
健康指導・防疫・舟入病院・衛生試験所・消毒・保健所	
産業	四八
商工業・農業・水産業・畜産・貿易・電気・瓦斯・電話・金融	
交通	六〇
道路・電車・バス	

港 治 上 下 夜 市 民 附

港	六五
港路の概況・港務施設・利用概況	
安	六九
警署・消防・廣島市民警察助隊	
水道	七四
下水道	七九
興	八一
都市計畫の沿革・震災と復興・都市計畫及びその進捗状況・幹線道路・橋梁	
公園と緑地・墓場・太田川改修	
市民生活	九四
市民生活の推移・主食の配給状況・職業・市街發達・娯樂場	
光	一〇一
概況・支線名稱	
主なる官公署・銀行・保險會社・證券會社・文化團體・體育團體・事業所	

廣島市の沿革

廣島の稱呼

七つの諸島を總し、昔後に中國山脈の隆起を仰ぐ我が廣島市は、その古太田川の流れによつて生れ出た「水の都」である。太田川河口の沙洲は一面一水にその地味を染し、濃緑を催え草木も蒼々茂年するに至り、遂に森林の地と化し、轉じて五箇莊といふに至つた。五箇莊とは人民集居の數五箇所の總名として約四百六十年前より用いられてゐたものと推察される。文獻によると、天正十七年毛利輝元がこの地に築城して、その名を廣島城と名付けたので地名も又廣島と稱せられるに至つたもので「廣島」の地名は三百五十餘年前より用いられてゐるものである。

沿革

創設の地たる五箇莊が役じた一帯によつて地土と化し、今世界の注目の中心復興街道を通過しつゝある廣島市も約四百年間は舊に倣ひたる一聚村に過ぎなかつた。但ち今から三百五十餘年前の天正十七年、毛利輝元が毛利氏から、當時五箇莊と呼ばれてゐたこの地へ移住を命じ、その勢力下にあつた安藝・備後・備前・伯耆・出雲・石見・隱岐・長門・異防の諸將士が舊任しこれに伴つて各種商工業者も続々、俄に繁榮を極めた事が廣島市發達の原動力となつた。

慶應元川に次ぎ元和五年（凡そ三百三十三年）淺野長政が紀伊和歌山より移り入城し、安藝一國、備後八郡四十二万六千石を領し治政十二世二百五十餘年間専横の政を敷き、商業を振興する等、鋭意町町の興隆を圖つた。然し明治維新の變革

によつて明治二年六月藩制廢止となり藩政主を以て藩知事に任ぜられた。茲に淺野藩政も明治四年七月に終止を打つた。茲に明治二年六月本市の行政は市政局臨時に掌事されていたが同年十二月市政局に密尹を置き藩制に直屬して市令の事務を豫括するに至つたが明治四年七月藩政廢止となり廣島縣第一區となり區長及び區區長が本市の行政を執行した。

明治十一年十一月縣區制が施行せられて本市は廣島市と稱し區以下吏員を置き、縣廳に直屬して區制を執行し更に明治十二年四月一日市制が施行せられ茲に廣島市が誕生した。而して廣島市役所を中島新町に移し市會、市參事會及び市長その他の諸機關を具え市政全般の事務を執行することとなつた。

明治十三年四月故千田貞隆男爵廣島縣令として本縣に赴任するや太田川の七瀬川より流出する治水のため水保次第に洩くなら千瀬等は統籌なく杜絶して廣島縣内に出入する船舶の不便多きを知り、獎勵を授け、明治十四年八月議方面の大反動を仰りて宇品港の計畫を樹立し鋭意これを完成に邁進し五年の星霜を費し、千辛万苦をなめず現在の宇品港を竣工した。次いで明治二十七年六月十日、恰も日清戰役開戦の前日、山陽鐵道が本まで開通して茲に廣島縣と宇品港が連絡され、我が國海運交通の要路點となつた。

その後明治三十七年十月宇品町、昭和四年四月隣接七箇町村の合併を行い總戸數九万四千二百餘戸、三十八万五千餘の人口を有する名實共に中國地方の一大都市としての體格を奏するに至つた。

[illegible]

人口動態 (戶籍課受理數)												
計		月別										
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
出生	1,234	1,156	1,289	1,345	1,401	1,328	1,267	1,198	1,134	1,076	1,019	1,156
死亡	987	1,012	954	1,023	1,087	1,145	1,201	1,256	1,312	1,367	1,423	1,478
合計	2,221	2,168	2,243	2,368	2,488	2,473	2,465	2,454	2,446	2,445	2,442	2,634
出生率	12.34	11.56	12.89	13.45	14.01	13.28	12.67	11.98	11.34	10.76	10.19	11.56
死亡率	9.87	10.12	9.54	10.23	10.87	11.45	12.01	12.56	13.12	13.67	14.23	14.78
自然増減率	2.47	1.44	3.35	3.22	3.14	1.83	-0.34	-0.58	-1.78	-2.91	-4.04	-3.22

備考 本派は市内のその月の内地人のみの誕生事件である

[illegible]

人口の大きな變動は昭和四年東京市に併合により約六万人増加した時並びに原子爆弾によつて十幾万の人口を失つた時である。

[illegible]

臺灣人口構成

CH 14-10-13

業種大分類	区分	種別	
		實業	農業
農	海	1,234	5,678
林	海	1,234	5,678
水産	海	1,234	5,678
建築	海	1,234	5,678
建設工業	海	1,234	5,678
製造工業	海	1,234	5,678
瓦斯電気熱水蒸気	海	1,234	5,678
運輸	海	1,234	5,678
金融	海	1,234	5,678
通信	海	1,234	5,678
電気ガス水道	海	1,234	5,678
自給自足農業	海	1,234	5,678
公務	海	1,234	5,678
その他産業	海	1,234	5,678
合	計	1,234	5,678

昭二二、一〇。一調人口二二二、四三四人の内、職業を有するものと内容で、本市の事業所の従業員数ではない。

行政

廣島の行政歴史

藩の行政制度

江戸時代は前述の如く、無間幕府はその偉大な権力と絶大な政策実行力によって、幕府政治の全盛期を出現し、素の行政能力もよく、當時の社会状況に適合しており、優秀で知識も少なくない武家野郎氏入封、修徳の町政は、上に東西町奉行があり、その下に五組に分け町町大番手があつて、行政、司法、警察事務を分掌してゐた、日常町政の事項についてはすべて町助の負担に任

町大層の町下にはおよそ一町に一人の町拜客がありその下に組別、五人組、隣組がありこれ等の役員が上に向つてはその管内の人民を代表して下郷上座を計り、下に臨んではその管内人民を統制し負担の徴収その他町内の用務を處理していた。爾來時々改組もあつたがこの制度は維持前に形を改組続いたのである。

明治以後の自治制度

「高野藩」は、政治的・経済的、社会組織の基礎であつた以上、自然と燃焼し、明治維新と共に遂次融解して、一時は官治に置き換へられたものの根柢は消え、漸く新しい自治體の必要が模索されてゐた。明治十一年には「高野町村制頒布法」の公布を見、越えて明治二十年には「國庫地方度」に一新制を創し、又市町村制を頒布せられた。翌二十一年二月二日には、國庫を市制施行に變更せられ、四月一日から市制を施行し、ここに初めて「地下町制」

職名別	人 員		計
	人 員	報酬人 員	
料理店及び飲食店等	11	11	11
その他の商業	40	40	40
土木建築修繕	—	—	—
學 校	10	10	10
官 公 吏	—	—	—
宗教家	—	—	—
その他職業	10	10	10
計	71	71	71

備考 その他の国はフランス、イタリー、米國、英國、カナダ、ベルギー等

島は、自治体廣島市として新しい發展をみるに至つた。

市役所が開設せられたのは同年九月二十一日で、市役は市民を代表し、市制に準じて市の一切の事を議決し、市参事會は市長、助役、各局局長等委員より成つて、市を代表して行政事務を擔任していたが、明治四十四年に市制が改正されて、従來市政執行機關であつた市参事會は、議決機關になり市長を以てその唯一の執行機關に改められた。

大正前年においては十年、十五年の市制改正で普通選挙法の發布に基づき、結核による市公民團の有無が懸念せられるに至つた。

昭和二十年八月十五日、太平洋戦争の終結後、我が國行政その他の各般の制度機構の改革は緒々進行された。翌年誕生した劃期的な新憲法は「地方自治の本質に基いて、地方自治の民主的の改革を要請し、昭和二十一年四月十七日地方自治法の制定とこのこと従来の地方政治に懸念した民主化の條條の下根柢的な變革を遂げるに至つた。従来行政職の組織擴大議會制度の互選市長の直接公選更に國庫管理委員、監査委員等の如き民主的機關の設置、國家監督の制小等がその主なるもので、茲に參政權を付與せられる市民の範圍の擴大により、自治制例以前に達せられていた公民の制が撤止され、又名義職制度も撤廢せられることになつた。更に住民の地方政治に參與する方式も從來のように間接民主制に悉くもばかりでなく直接參政の方式が認められるようになつた。この改革を具體的成果である。かくの如くこれらの改革は地方自治の理想を具體に表現した民主制制度として地方行政の善後安否を經營を發奮している。昭和二十三年三月七日警察消防市に修善された。

廣島市歴代市長一覽表

年次	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	氏名	明治二十八年八月八日	明治三十二年十一月十五日
二代	氏名	明治三十二年十一月十五日	明治三十九年四月二十日
三代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
四代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
五代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
六代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
七代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
八代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
九代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十一代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十二代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十三代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十四代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十五代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十六代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十七代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十八代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
十九代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日
二十代	氏名	明治三十九年四月二十日	明治三十九年四月二十日

歴代市會議長一覽表

年次	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	氏名	明治二十二年六月	明治二十二年六月
二代	氏名	明治二十二年六月	明治二十二年六月
三代	氏名	明治二十二年六月	明治二十二年六月

行政機構

議決機關
復興農協の行事は多岐である。次々と起る大きな問題も次々
の市議會及び委員會議の開催回数の示す通り漸々と處理されてい
る。

市會議議員(定員四十名)

現在員三十九名(一名欠)	氏名左の通り(議席順)
吉本 北男	木村 豊男
地後 壽彦	磯原 光夫
波多野 勇男	磯田 良一
河内 勉	村上源次郎
山岡 一男	土岡喜代一
松下一男	杉村政太郎
坂本 武	三宅 繁吉
廣見 勲一	宮本 正夫
吉本 壽一	新田 貞夫
池城 廣治	上田 隆一
鈴木 實	川本 精一
松本 清	任野 司
柳井 東一	岡村才四郎

議長、副議長

議長、副議長
八月十八日
十一月廿五日
伊藤議長就任、八月十九日土岡副議長就任
伊藤議長就任、十一月廿五日任野議長就任

昭和二十三年年度豫算額

故

人

(昭和四二、自集市)

[illegible]

收入来源	市	省	中央	其他	合计
1. 财政拨款	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
2. 上级补助	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
3. 地方自筹	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
4. 社会捐赠	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
5. 其他收入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
合计	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	20,000,000

111

科 目	計 算 額	現 計 算 額	追加更正の主なもの
資 産 費	1,000,000	1,000,000	追加更正の主なもの
負債費	1,000,000	1,000,000	追加更正の主なもの
資本費	1,000,000	1,000,000	追加更正の主なもの
費用	1,000,000	1,000,000	追加更正の主なもの
合計	4,000,000	4,000,000	

[illegible][illegible]

科 目	資 源 庫 額	備 用 庫 額	現 貨 庫 額	道 田 正 の 主 なる も の
使用料及手動料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	水道使用料
給水工事費收入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	給水工事費その他
雑 収 入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	雑 収 入
公営施設及財産収入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	公営施設及財産収入
國庫支出金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	國庫支出金
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	繰 入 金
市 債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	市 債
購入合計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	購入合計

出 入

科 目	常 務 課 算 額	組 加 後 算 額	現 計 算 額	組 加 更 正 の 主 な る も の
水 道 費	1,124,426	1,124,426	1,124,426	職員給与・リース償却及び 本所施設改良事業の経費
公 債 費	1,124,426	1,124,426	1,124,426	
新 築 費	1,124,426	1,124,426	1,124,426	
修 繕 費	1,124,426	1,124,426	1,124,426	
出 入 合 計	1,124,426	1,124,426	1,124,426	

都市計画事業費決算

入

科 目	常 務 課 算 額	組 加 後 算 額	現 計 算 額	備 考
雑 入 合 計	1,124,426	1,124,426	1,124,426	税制改正に伴う本税引上による増

出

都市計画事業費	1,124,426	1,124,426	1,124,426	已取立債権振込補正工事費
雑 入 合 計	1,124,426	1,124,426	1,124,426	

公益質屋費決算

入

科 目	常 務 課 算 額	組 加 後 算 額	現 計 算 額	備 考
雑 入 合 計	1,124,426	1,124,426	1,124,426	一統会計よりの雑入金

出

雑 入 合 計	1,124,426	1,124,426	1,124,426	
---------	-----------	-----------	-----------	--

用品調達費豫算

歳

入

備

考

科 目	当初豫算額	追加豫算額	現計豫算額	備 考
特 入 金	2,200,000	24,000	2,224,000	一般会計よりの特入金
繰 上 金	—	—	—	
繰 替 金 収 入	2,000,000	1,000,000	3,000,000	
雑 収 入	—	—	—	
歳 入 合 計	4,200,000	1,224,000	5,424,000	

歳

出

科 目	当初豫算額	追加豫算額	現計豫算額	備 考
用品調達費	2,200,000	1,224,000	3,424,000	
雑 費	2,000,000	—	2,000,000	
歳 出 合 計	4,200,000	1,224,000	5,424,000	

歳費復興費豫算

歳

入

科 目	当初豫算額	追加修正豫算額	現計豫算額	追 加 更 正 の 由 来 の も の
復興費入金	2,200,000	24,000	2,224,000	
繰 上 金	—	1,224,000	1,224,000	創設不承認分一般会計特入金
市 費	2,000,000	2,000,000	4,000,000	
各地復興費	2,000,000	—	2,000,000	
繰 上 金	—	1,224,000	1,224,000	
歳 入 合 計	6,200,000	3,448,000	9,648,000	

歳

出

科 目	当初豫算額	追加修正豫算額	現計豫算額	追 加 更 正 の 由 来 の も の
復興費	2,200,000	24,000	2,224,000	
公 債 費	2,000,000	—	2,000,000	
歳 出 合 計	4,200,000	24,000	4,224,000	

[illegible][illegible]

青島市立第一中學校	二二	女	七二五	白島中町一
安南女子高等學校併設中學校	二二	女	一六九	北平山本町
安南女子高等學校併設中學校	二二	女	七一九	霞町七二
安南女子高等學校併設中學校	二二	女	九一〇	霞町第一丁目六七八
青島市立第一中學校	二二	女	四八〇	龍泉山崎町二八六
青島市立第二中學校	二二	女	一六八	南嶺町第一丁目
青島市立第三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四中學校	二二	女	二二〇	空島町
青島市立第五中學校	二二	女	二二〇	龍崎町
青島市立第六中學校	二二	女	二二〇	龍崎町
青島市立第七中學校	二二	女	二二〇	草津町
青島市立第八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第二十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第三十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第四十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第五十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第六十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第七十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第八十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十一中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十二中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十三中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十四中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十五中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十六中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十七中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十八中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第九十九中學校	二二	女	二二〇	南嶺町
青島市立第一百中學校	二二	女	二二〇	南嶺町

社會教育は本市建設の根本的な問題である。本年申中行はれた主な行事は大體次のやうなものである。

青少年指導

ボーイ・スカウトの復活強化が行はれつゝあり、現在三十二名一隊として九ヶ隊を編成し増強の傾向がある。

昭和二十三年中に講習會二回、就校會一回開催した。

青年指導

青年團體は現在六十一團體三千餘人で市の青年指導は常にその聯合會の手によつて行われている。

同聯合會は従来の外臨時討論大會等も開催しているが特に本年は北地大震災に際して職員五十三名が現地に赴行して十日間に亘つて救済に努力した。

婦人指導

婦人團體の組織に母子愛育會がある。全市内に三十六の會がありこの連合會を組織し會員二萬六千人を有している、別に婦人連合會加盟の六團體があり會員は二千五百で活動を期待されている。

貯蓄指導

本市前面の義務となる貯蓄は新國策にもなる凡ゆる意味の貯蓄活動は努力に行つて来た。このうち六、三割増設の資金に當りては貯蓄運動の奨励が最も、これによつて行われた。四月より十二月の間に一、六〇〇萬圓の校金修養校の基付貯金を獲得した。

第五回國民体育大會誘致

縣市當局及び縣市體育協會の努力と關係者の協力によつて

昭和二十六年の國民體育大會は廣島市で開催を見る事となつた市民ランド
元田園風景に市役所グラウンドが建設されること決定、工事費九、五〇〇萬圓で補修は次の通りである。

- 式野球場 七、〇〇〇坪
- 軟式野球場 二、四〇〇坪
- ラグビー場 五、〇〇〇坪
- 水泳場 二、八〇〇坪
- 排球場 三、〇〇〇坪
- 體育館 二、五〇〇坪

右の中途球場は二萬五千人の收容能力を有するものであつて昭和二十四年八月六、七、八日に舉行されるマッセル杯争奪戦に備へ工事進行中である。

討論會

九月から其後公開討論會が四回、文壇大等に於て七回開かれた。論題は公務員法、教育委員法、農林復興、戀愛結婚、女性解放、字の配給方法、學校の週五日制等であつた。

文化祭

十一月三日文化の日、児童文化會館に於て舉行音樂、舞臺、劇等が催され出演者百餘名に上る盛況で午後五時、午後一般に無料公開された。この文化祭は將來全國的な行事とする計畫がある。

近代美術展覽會

日本が誇る國寶的美術の粹を築き福屋ビルに於て十月二十五日から十一月八日まで展覧された出品數及び入場者は左の通り

引揚被服

引揚被服運動が盛んに展開され、引揚者に対する被服は保良歩兵に市職組青年婦人部によつて贈答を開かれ、又引揚者より贈答を得た在外生存者は直に家族に通知又は新聞紙上に発表された。

(引揚者、一般引揚者を含む)

月別	引揚者	市	内
昭和二十三年五月	1	2	3
六月	2	3	4
七月	3	4	5
八月	4	5	6

月別	九月	十月	十一月	十二月	合計
引揚者	1	2	3	4	5
一般引揚者	6	7	8	9	10

保育所

昭和二十三年一月一日児童福祉法施行に伴ひ保育所を顕示し
 1. 江坂保育所を十二月一日新設開所した
 2. 従く新設増設増設等の地上にあるものに左の四ヶ所がある

白鳥、白鳥、京浪、大河

保育所一覽表

施設名	敷地	入所児童数	被服被服者	要保護者	その他	計	定員
東陽保育所	1	2	3	4	5	6	7
西陽保育所	1	2	3	4	5	6	7
青陽保育所	1	2	3	4	5	6	7
南陽保育所	1	2	3	4	5	6	7
白鳥保育所	1	2	3	4	5	6	7
京浪保育所	1	2	3	4	5	6	7
大河保育所	1	2	3	4	5	6	7
海上保育所	1	2	3	4	5	6	7

施設名	敷地	入所児童数	被服被服者	要保護者	その他	計	定員
南陽保育所	1	2	3	4	5	6	7
白鳥保育所	1	2	3	4	5	6	7
京浪保育所	1	2	3	4	5	6	7
大河保育所	1	2	3	4	5	6	7
海上保育所	1	2	3	4	5	6	7
合計	1	2	3	4	5	6	7

児童福祉施設として本市内の附設新設された
 児童福祉施設として本市内の附設新設された

養護施設一覽

(昭和二十三年一月一日現在)

施設名	敷地	入所児童数	被服被服者	要保護者	その他	計	定員
新生保育園	1	2	3	4	5	6	7
白鳥保育園	1	2	3	4	5	6	7
京浪保育園	1	2	3	4	5	6	7
海上保育園	1	2	3	4	5	6	7
合計	1	2	3	4	5	6	7

四〇

備考 新生學園並びに六方學園の原因別は不明
生活保護

（昭和四十四年三月）

(4) 保護人員並びに金類

[illegible]

(2) 行路病人

行路病人の牧場は市内東張町比治山病院が富つてゐる
(自昭和二三、二三)

白駒

計	女	男	性別
六	四	五	婦人目録表
一	一	一	計
一	一	一	解放
一	一	一	死亡
一	一	一	引渡
一	一	一	計
一	一	一	現在是

[illegible]

計	女	男	性別別
二	一	五	病死
四	一	三	輪死
一	〇	九	墮死
三	一	二	撞死
一	一	一	凍死
六	〇	六	計

(4) 精神弱者

市外府中町の井上靜雲院が市の委託によつて収容保護に當つてゐる。

精神病者數

卷之三

計	女	男	性別
男	二	二	被入人員
女	二	二	計
男	二	二	解放
女	二	二	引渡
男	二	二	死亡
女	二	二	計
男	二	二	現在員
女	二	二	

脚促事業

關係施設として東西關係館が尾長町並びに網走町にあるその利用状況は改裝の通りである。

國別	單位	設備	利用狀況
日本	日本經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
美國	美國經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
英國	英國經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
法國	法國經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
西德	西德經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
意大利	意大利經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
加拿大	加拿大經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
澳洲	澳洲經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
紐西蘭	紐西蘭經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
南非	南非經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
印度	印度經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
中國	中國經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
香港	香港經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月
台灣	台灣經濟團體聯合會	1970年10月	1970年10月

(自明和爲三三三)

區分	利用回数
トウキョー市治療 全町予備隊 青少年指導員(共男児)	五一
生活相談	五
体育相談	四二
青年相談	二九
職業相談	一八
音楽相談	五〇
音楽会協賛	三
講演会 音楽會	六
町の各種団体及び組合関係會	五四

厚生事業

公益質屋

公益質屋

国金融の利

翌となり十一月より新に西公館館屋を改置した。

廣州市公益質屋貸付狀況

年次別月別	二 十 二 年 度	二 十 一 年 度	五 月	六 月
件	1,111	1,111	1,111	1,111
噸	1,111	1,111	1,111	1,111
貨物点数	1,111	1,111	1,111	1,111
食付金額	1,111	1,111	1,111	1,111

診療所利用状況

3
投壺場

3
-
投資場

備考一、松風内閣公館前を築す

(自題詩三首)

[illegible]

生活相談

（自昭和二年二月一日
至二年三月三十一日）

駐朝代表	廣島校運動員	仁保町商會	私費	池田自衛隊軍用機器及印刷等
日米自助軍援會技術委員	廣本市町	廣本市町	私費	自衛隊本部製造廠下に自衛隊修理場
中國木工總協同會所合作委員會	東豐陸司	公共事業	〇〇	〇〇
漢口民兵軍事協會(廣受援會)	中興本町	民生寧協會	〇〇	〇〇
計	一一一		420	87

組織され急務現地に出勤して救援作業に當つた。

● 團體供餐

戦災死者のために市内中津本町並びに俱舘にある「兩供養塔」において毎月奠祭が執行されている。
又八月六日には廣島市供養會が主体となり各宗教合同による供養廻拜が執行されている。

ま。ハレンとラニ女史の奉廣

三書雪の孫女、ヘレンタラウ女史は、マ元帥の賓客として来朝したが十月十三日廣島市を訪れ歡迎團民大會へ兒童文化會館へに臨席の後事務所を訪問した。

官傳經者

[illegible]

その他

昭和二十三年六月二十八日の北陸震災に對し本市は直ちに廣島市北陸震災救助会募集委員會を結成しこれが主体となつて余市民に義捐金及び救恤品の募集に當つた結果

故始

1100046

被害者に持参して救護に務めた。

種別		三年 四月一日至 五月三十一日	二年 四月一日至 三月三十一日
コレラ	一	二	一
赤痢	二	六	一
症瘧	二	二	一
腸チフス	(四)	三	一
バネチ	一	五	一
夜盲	一	一	一
黄熱チ	一	一	一
ジヤチ	(一)	一	一
血紅熱	一	一	一
日本腦炎	一	一	一
癩疾	一	一	一
注	一	一	一

四六

[illegible][illegible]

（五）自願捐輸

衛生試験所は市内新八幡町にあり、利用状況は左の通りである。

[illegible]

三

依制試驗狀況表

[illegible]

續編

清掃事變

應芬蘭理

全市五五・二三〇戸の内牛糞は自家處理でその他の四六は市の直營で處理してゐる。

屎尿處理

一般民衆が自給採掘の肥料として自家処理するもの全市の大部分に及び、運輸も附近農家の争つて渡れるところとなつてゐる。その市は消費及取りの必要はなかつた。公衆便所は数里に依り三〇分間隔及び家が延びては十七分間を使用中で渡取りは市内幾處に處理せられてゐる。

戰災死沒者改葬事業

原場により市内被災死者の深度が相當數以上に上つていたのでこれらの靈を慰める爲め左記の如く改葬を行つた。

廣島市保健所

昭和二十三年八月一日縣立廣隆保健所が本市に移管され廣隆市保健所を融入率司に設置、市民の保健衛生指導機關として運営されつゝある。

尾 最高首飾店	尾 最高首飾店
央 實小學校	央 實小學校
庚 牛小公園	庚 牛小公園
南 千田町	南 千田町
三 藩町	三 藩町
區 波射的場	區 波射的場

保固所曉誠說

組織、衛生、預防、普及の四綱の下に、世務、醫務、藥務、環境衛生、食品、防疫、疫症、衛生統計、衛生教育の九係がある。

	專務委員	技術顧問	職員	計
一	主事吉田 計	技師松本 隆	事務員坂西員以重員 治	
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
二十一				
二十二				
二十三				
二十四				
二十五				
二十六				
二十七				
二十八				
二十九				
三十				
三十一				
三十二				
三十三				
三十四				
三十五				
三十六				
三十七				
三十八				
三十九				
四十				
四十一				
四十二				
四十三				
四十四				
四十五				
四十六				
四十七				
四十八				
四十九				
五十				
五十一				
五十二				
五十三				
五十四				
五十五				
五十六				
五十七				
五十八				
五十九				
六十				
六十一				
六十二				
六十三				
六十四				
六十五				
六十六				
六十七				
六十八				
六十九				
七十				
七十一				
七十二				
七十三				
七十四				
七十五				
七十六				
七十七				
七十八				
七十九				
八十				
八十一				
八十二				
八十三				
八十四				
八十五				
八十六				
八十七				
八十八				
八十九				
九十				
九十一				
九十二				
九十三				
九十四				
九十五				
九十六				
九十七				
九十八				
九十九				
一百				

産業

再思不可成に見えた本市の産業は二十五万餘人の都市に相應する一應の形骸は整つた。然し内容を徹する時事は産業の健全化を必要とする時期に到達している。

商工業

戦災後、及び復済の曙光を見る予備後の當の如く成立した中小商工業者の中には、物価暴落の機をつかんで發達をして來た異常的なものも相當あつた。然し日々の隅口から變り得ない戦災、引揚者で満した當時の狀態としては止むを得ない事であつた。

近時インフレと資金の上昇等によつてこの種業者は經營困難となつて來た。それによつて經營の合理化と健全なる新産業の開發發展が必要となつて來た。

中小商工業對策

1. 商業 商業協同組合の結成を勵励し業者相互の横の連絡をとると共に、その商業組織の整備、經濟秩序の回復、經營の合理化を圖つた。

工業

中小工業者相互の結成を指導し横の連絡をとりしめると共に、各種講習會の開催を通じて生産技術の向上と經營の合理化を圖る一方各地に覽會、品評會を出品して販路の擴張を圖つた。

企業の開発發展

1. 大工場の新設及び修繕

工業別工場数及び生産額

工業別	工場数	生産額
金工工業	22	11,111
機械工業	18	11,111
化学工業	12	11,111
窯業工業	10	11,111
窯業及び土石工業	10	11,111
紡織工業	10	11,111
製糖及び油脂工業	10	11,111
食品工業	10	11,111
印刷及び紙工業	10	11,111
その他の工業	10	11,111
合 計	100	111,111

産業分布状況(出所概算)

産業別	事業所数	従業者数
商業	1,000	10,000
建設工業	100	1,000
製造工業	100	1,000
交通	100	1,000
教育	100	1,000
文化	100	1,000
娯楽	100	1,000
その他	100	1,000
合 計	1,000	10,000

賠償指定工場である三芳重工業、宇治造船、水野造船、三三の存否は本工業の命運を左右するものとしてGHQとその協力機関に關する問題が待たれている。

次に大工場の對策について色々手がうたれたが本年新設されたものに三芳食品工業株式會社がある、商會が主であり、所定、従業員二、五〇〇人を目標に視察を擴大である。

2. 輸出産業の進展本市の輸出品は針と縫製品である。特に針は往年世界約半生産地であつたが現在八〇%を回復しその進展に力が注がれた。現在は米國、印度、香港が主たる市場であるが本年は南アフリカの販路が復活しこの外南アフリカの市場を回復しつつある。

商業別事業所数及び従業者数

(昭和二十七年)

商業別	事業所数	従業者数
建設工業	100	1,000
製造工業	100	1,000
交通	100	1,000
教育	100	1,000
文化	100	1,000
娯楽	100	1,000
その他	100	1,000
合 計	1,000	10,000

農業

1. 農業者が解放されたためその事務を取扱う機關として生産者協同組合が出來て農民自治の自主的民主的農業團體として農民の地位の向上と生産的増進を期することとなつた。

一月に入つて追加放流する決定である。
 向本年は鮮魚の一貫した東船配給の任に當る機關として在津に
 廣島水産中央市場を開設しその下宿組織としては在東の市場に
 箇所、荷受機關三箇所が存置されている。
 地區別經營者及従業員数一覽表 昭和二十二年

地區別	區分	經營者	従業員
京	津	1人	1人
江	神	1人	1人
出	島	1人	1人
丹	別	1人	1人
牛	品	1人	1人
日	那	1人	1人
魚	島	1人	1人
新	島	1人	1人
大	洋	1人	1人
計		1人	1人

畜産

本市に於ける家畜の總数は左の通りである。

牛 二九〇頭 馬 三三〇頭

猪 一、〇五〇 山羊 三三〇頭

家畜の取引数量並びに屠殺数量は次の通りである。

家畜市場に於ける家畜取引頭数 昭和二十二年

畜	別	取引頭数	使用料
牛		1,000頭	100円
馬		100頭	100円
猪		1,000頭	100円
山羊		1,000頭	100円
計		4,000頭	400円

區分	經營者	従業員	計
京	1人	1人	1人
江	1人	1人	1人
出	1人	1人	1人
丹	1人	1人	1人
牛	1人	1人	1人
日	1人	1人	1人
魚	1人	1人	1人
新	1人	1人	1人
大	1人	1人	1人
計	1人	1人	1人

昭和二十二年

貿易

一、昭和二十三年一月一日廣島港は貿易港に指定された。

一、廣島港に一萬噸級の船舶を停泊し得る埠頭を建設する計畫が遂行されている。

一、シヤム、ソ聯、南支那、食米、客車等車輛の輸出契約が既に成立しており埠頭の改善は必要の問題となっている。

一、十月よりライオン中國總代理店が本市に設置される事内定した。

一、本市の輸出品の主なるものは針及び羅織であるがこれは商工業に於て盛へた通りである。

一、針の調査検査所を本市に誘致する運動が続けられている。

貿易の状況は次の通りである。

品名	品名	数量	使用料
米	米	100,000	100円
小麦	小麦	100,000	100円
大豆	大豆	100,000	100円
蚕糸	蚕糸	100,000	100円
羊毛	羊毛	100,000	100円
皮革	皮革	100,000	100円
木材	木材	100,000	100円
鉄材	鉄材	100,000	100円
銅材	銅材	100,000	100円
鉛材	鉛材	100,000	100円
錫材	錫材	100,000	100円
鋅材	鋅材	100,000	100円
鎳材	鎳材	100,000	100円
鉻材	鉻材	100,000	100円
モリブデン	モリブデン	100,000	100円
コバルト	コバルト	100,000	100円
マンガン	マンガン	100,000	100円
ニッケル	ニッケル	100,000	100円
銅	銅	100,000	100円
鉄	鉄	100,000	100円
鋼	鋼	100,000	100円
鋳鉄	鋳鉄	100,000	100円
鍛冶	鍛冶	100,000	100円
機械	機械	100,000	100円
電機	電機	100,000	100円
化学	化学	100,000	100円
医薬	医薬	100,000	100円
食品	食品	100,000	100円
繊維	繊維	100,000	100円
皮革	皮革	100,000	100円
木材	木材	100,000	100円
鉄材	鉄材	100,000	100円
銅材	銅材	100,000	100円
鉛材	鉛材	100,000	100円
錫材	錫材	100,000	100円
鋅材	鋅材	100,000	100円
鎳材	鎳材	100,	

[illegible]

電氣

原簿に於て電氣設備の被害は非常に甚大であつた。市街の尤
の繁を占めてゐる電氣設備株式會社は全市に亘つて大規模の最
中にもあつたが八月七日より直ちに復旧作業に着手し同二
十日には東京方面の三割、十一月末日には十割の設備を完
了した。水害、長堤には九月又市電には八月中に夫々線路を開
始した。

復旧状況は次の通りである。

電氣設備狀況

(中國醫藥出版社)

項目	年度
電燈需要戸数	4,760戸
電力需要戸数	4,760戸
支持物(杆)	其ノ他
梅路耳長(本)	其ノ他
電線ノ敷(道)	156 CO.
電力	189,000 KW.
合 KVA	234,000 KW.
燃燈器数	4,760個

電力需要動向

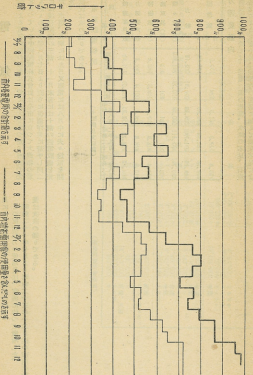
終戦後電力供給に於ては、増電設備の増設、水源の不足、石炭の状況悪化による生産不足、燃料等の需要に加えて薪炭不足によ

る家庭用電熱の浪費、或は盗用等の結果として未曾有の電力不足による電力危機を招来するに到つた。

三、實業不振，失業日多，民力凋敝，民生困苦。

との取組が、この間に倍増した。

昭和二十一年七月より昭和二十三年十二月迄の市内供給電力量は次表の通りである。



市内各電力会社の合計値を示す

市内各電力会社の平均値を示す

右表の示す通り二十一年七月より二十二年三月迄の電力使用量は概か八箇月間に約二倍強に上昇し二十一年末からは電力供給調整局施行と共に獨力に制限が實施されるの已むなきに至つた。二十二年三月を國勢として十一月迄は使用量は減少してゐる。二十二年三月迄の上昇率を觀察すればこの期間に實施された電力制限が如何に強度のものではあつたかが容易に辨別出来る。

中國配電局島嶼事務所管内に於ける昭和二十二年四月から昭和二十三年三月の間の放電日及び休電日は次表に示す通りであつて一箇年を通じてその休電日率は約三二・一%の高率を示してゐる。

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
放電日	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
休電日	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
放電日	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
休電日	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

前述の如き制限が實施された昭和二十二年に入つては電力事情も緩和した。即ち二十三年度前半期迄は大口電力に對する通告電力量の三割増配、二月檢針日以降節電率の緩和等電力事情は好轉し、廢棄電力に對する電力量が特配され二十四年を迎へるに至つた。

一方中國地方の發電量の増加と相俟つて中國配電に於ても戰前都市與島の不完全な配電設備の整備に鋭意努力中であり本年中には西宮與島及び市役所を中心とした發電所二箇所を新設する豫定であり、市内配電線も廣品市將來の需要増加に備えて

現在著々整備中であり廣品市の將來に明るいものが期待されてゐる。

瓦 斯

瓦斯事業に於ては、戰時中本市が軍都として積極的發展をした爲一般生活に關係不可分である瓦斯事業は、これに伴つて、大いに擴張せられ、東京瓦斯株式會社與島工場の瓦斯生産能力は一日約二三、〇〇〇立方丈に達し、消費戸數は一四、〇〇〇戸を數えたが戰争の激化と共に燃料調製等によつて原燃當時は二二、六〇〇戸に減少してゐた。

昭和二十年八月六日の空襲によつて瓦斯製造施設はその機能の九〇%を一瞬にして失ひ、特に大平町三丁目にあつた、本社從業員は殆んどが犠牲した。この様な悲惨な状況下にありながら早くも同月十日には消費町の工場に取敢えず假小屋を建て、破壊した工場施設を整理し復調準備に着手した。

斯くして戦難を迎へた本市も年を追つて復興してゐたが昭和二十一年二月中旬には漸く瓦斯發生施設の整備が完了したので保溫のため火入を行った。これより先に米品、翠町、増賀町一帯は瓦斯供給に必要な水管、供給管、屋内管の復調による整修は他地區に比し進歩であり加生衛工場より面議的にも早く技術的見地よりも瓦斯供給の實現可能であると共に地元民の熱望によつて、これが復舊は急務度に進捗し昭和二十一年四月十一日には原燃設備が復舊供給が行われた。この時に於ける消費戸數は七〇〇戸であつた。爽いでこれを契機として現在迄に南平町、大平町九丁目、東郷等供給施設の比較的損傷の輕く人家のある線に沿つて復舊し瓦斯供給を行なつてゐる。

五八

昭和二十三年十月牛座星 月座星

昭和二十三年十月牛座星 月座星

生產量	總、(2)立方米	(體力二、(2)立方米)
消費量	一、(1)噸	(體力一、(1)噸)

本市の電話の復興は次の通りである。

昭和二十年八月六日 加入口数 九、七〇〇
戦災と共に中央電話局の通信網構はもとより市内内線及び
加入電話機はその殆んどが壊滅した。
昭和二十年八月十五日 加入口数 一三

取敢て失せる電話局に應急的に油石式交換機を設置
て、取敢て例示との通信網を構成した。

昭和二十年十二月十二日	加入口数	二一九
其月末には逐次増加し、加入口数は四七を数えたが、その 後、内務省認可日表製鋼所工員寮に交換機を開設した。		
昭和二十一年八月二十五日	加入口数	七九一
二十一年七月には交換機が不足したため、東京電報局に供 与する程度に交換機を納入せられたので、東京電報局に供 与する程度に交換機を納入し、電話の増強に努め、先結果、市内電話も 漸く復興の緒に著いた。		
昭和二十二年末	加入口数	一、三〇〇

電話は街道通より現在、下中町に復歸し、同電話局より
借用した自動交換機を復舊し、五月末には同様の増強を見
込、毎々加入者は逐次増加した。

昭和二十三年
内の復興に伴つて加入者は増進して来たために、西分復舊

活の必要を生じこれが實現を早急になすべく鋭意努力を拂つた。

前述の通り市内の復興に對應して、電話加入者も益々増加の傾向にあり、電話局はあらゆる障礙を克服して電話網の整備擴張を期しており、現在加入者数は約二、二〇〇を数えている。

本市の金融機關は銀行一二、信託會社二、金庫三、舞臺一、信用組合その他貯蓄支店等がその主なるものである。郵政銀行として高麗銀行があり市内に本店の外十二ヶ所の支店を有し本市金融の樞軸となしている。

銀行預金貸出推移表

[illegible]

- 一、信託會社には富士、三和の二社があり
昭和二十三年十月現在金融状況は次の通り
金 額 信 託 二億二千一百一十一千圓
有價証券信託 六千五百六十六萬四千圓
一、信用組合は協会の常組合が合体して商島信用組合を構成
その事務所を先三信信用組合に置き市内に八ヶ所の支店を有
し
昭和二十三年十月現在金融状況は次の通り
預 金 總 高 二億三千三百六十六萬
貸 付 總 高 九千三百四十三萬八千圓
一、金庫は農林中央金庫、商工中央金庫並びに市民金庫の三
つの施設支所があり
昭和二十三年十月現在金融状況は次の通り
貸 付 總 高 七億四千三百四萬圓
貸 付 債 高 一億二千一百六十一萬圓
一、無業會社に農島無業がある。現在金融機構の折衝市民に親
しまれ、近來金融に利用者の増加を見え昭和二十三年十月現在
契約六位一千三百八十萬七千圓に達している。
一、以上の外金融機關として、保障會社がある。現市内に支
店を有する保障會社は生命保險十六社、損害保險十六社である。
又證券取引會社は市内に本店を有するもの二十三、支店
を有するもの四である。

交通運輸

修最後の交通運輸の概況は市況に絡するものがあつたが

各縣乗客の内定期券に依るもの抜萃 (一日平均)

年次	期別	國島縣	巴郡縣	横川縣	計
昭和二十三年	一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	二月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	三月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	四月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	五月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	六月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	七月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	八月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	九月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十二月	1,111	1,111	1,111	3,333

備考 昭和二十三年横川電報線の旅客は横川縣に包含する。

各縣投貨物到着總數一覽表

年次	期別	國島縣	巴郡縣	横川縣	計
昭和二十三年	一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	二月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	三月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	四月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	五月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	六月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	七月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	八月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	九月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十二月	1,111	1,111	1,111	3,333

治安の安定と相俟つて所んど世間が復した感がある。農島、巴
郡、横川、各縣、農島縣、市内電車、市内バスの運輸状況及び
その施設は次の通りである。

各縣乗客數一覽表 (一日平均)

年次	期別	國島縣	巴郡縣	横川縣	計
昭和二十三年	一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	二月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	三月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	四月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	五月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	六月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	七月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	八月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	九月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十二月	1,111	1,111	1,111	3,333

備考 一、横川線三月迄は横川電報線の定期乗客數を含む。

各縣投貨物發送總數一覽表

年次	期別	國島縣	巴郡縣	横川縣	計
昭和二十三年	一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	二月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	三月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	四月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	五月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	六月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	七月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	八月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	九月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十一月	1,111	1,111	1,111	3,333
昭和二十三年	十二月	1,111	1,111	1,111	3,333

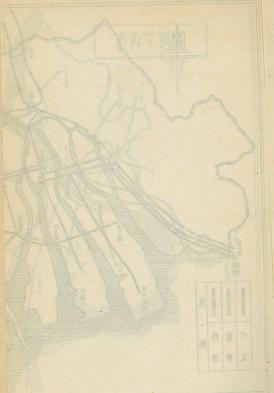
電鐵自動車部事業狀況

年度別 區別	線			市外		
	距離 數	運賃 段	延運客數	距離 數	運賃 段	延運客數
昭和二十年	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)
昭和二十一年	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)
昭和二十二年	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)
昭和二十三年	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)	122.0 (里)	1 (段)	1,111,111 (人)

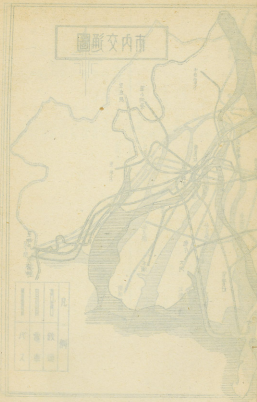
市内バス區間距離一覽

(昭和三十三年現在)

廣島縣—廣川	二、八〇杆
八丁堀—牛田	二、六六杆
堀ノ橋—江波	三、一七杆
西大橋—大河	五、三〇杆
洲崎—廣島	三、四〇杆
昭和新聞—天満町	三、〇〇杆
廣島—朝田	一、六五杆
廣島—千田	二、五〇杆
計	二七、二八杆



バス路線	バス停留所	バス停留所
バス路線	バス停留所	バス停留所
バス路線	バス停留所	バス停留所



港 灣

故千田男爵千辛万苦の結晶である埠品港が完成したのは明治二十二年十一月であつた。

昭和七年十二月埠品港を奥島港と改稱し始めて昭和八年一月を期して現在の大奥島港建設工事が開始され港灣洋施設並びに百萬坪にわたる大型立地の完成を見るに至つた。

奥島港は本市南部に位し前面に數在する瀬戸内海特有の島々が自然の防壁をなしている天然の良港であつて風害も極めて溫和で年間に通じて荷役不能の日は殆んどない。

港域範圍は八四〇万平方米、水深十二米乃至十七米であつて灣内に三隻、水師の二大造船所の外三つの造船所を有している。

昭和二十三年一月一日本港は貿易港に指定され大綜合貿易港として發足することとなつたのであるが現在の埠頭は小型船用のみであつて大型船は泊船に於て停泊役をするの十分なき状態である。既に決定した貿易契約も相當の額に上り將來本市の發展に寄與する甚大である點に鑑み港灣施設を全般にわたる大改修計畫が立案されている。その中項をなすものは一萬トン以下五千トン、三千トン、二千トン、一千トン各級船舶を個々に繋船しうる埠頭の施設である。

次に現在の港灣施設並びに利用状況は次の通りである。

港灣施設

泊地面積

大型船用 二、四〇〇万平方米
小型船用 六〇萬々
横濱外 内

防波堤並びに防砂堤

（昭和五〇、五一年）
防波堤延長 五〇〇米
防砂堤延長 一、八二四米
計 三、三二四米

埠頭

總延長 一、三六九米
平均幅員 三、五九七米
平均水深 一、四米強
二、五四米

倉庫その他の貯留設備

（埠品港港域のみ）
1. 小規模埠頭用埠内倉庫

簡所數 一九九所
總床面積 二二二種

置、四八二平方米

附屬荷役機械 五〇〇固定式起重機 一

2. その他の倉庫並びに貯留施設（昭和五〇、五一年）

附屬荷役機械 二

倉庫	面積	埠頭	附屬荷役機械
倉庫	四、三三三平方米	埠頭	附屬荷役機械
貯米	三、〇〇〇	埠頭	附屬荷役機械
貯木	埠上三、〇〇〇	埠頭	附屬荷役機械
貯油	埠上三、〇〇〇	埠頭	附屬荷役機械
貯穀	埠上三、〇〇〇	埠頭	附屬荷役機械
危險物置場	埠上三、〇〇〇	埠頭	附屬荷役機械

船舶補給設備

（昭和廿五年現在）

必 稱	散 量
給油船	四型
給水船	一型
給水船	四本
給水船	二型

(註) 排水力(十噸圓に付て)

6,000
7,000
8,000

船舶碰撞

(附註) 現在

[illegible]

四

附屬設備機械は次の通りである。

移式起重機	二〇噸	七基	一〇噸	三基	五噸	三基
固定式起重機	二噸	七基	五噸	三基	三噸	一基
起重機	三・五噸	一基	一〇噸	一基	一八噸	一基
起重機	四〇噸	一隻				

臨港直路

[illegible]水
路（港域内）

名	得	尾	長	幅	楕	栗
天 國	川	平 石 分	三 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分
本 安	川	三 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分
立 磯	川	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分
旗 敷	川	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分
栗 田	川	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分	一 石 分

荷役能力

荷役勞苦者歟

(昭和十一年現在)

[illegible]

利用狀況

航

[illegible]

432

（附註）現立

計	株路歌	
一、	定額	
二、	定額	
三、	定額	
四、	定額	
五、	定額	
六、	定額	
七、	定額	
八、	定額	
九、	定額	
十、	定額	
十一、	定額	
十二、	定額	
十三、	定額	
十四、	定額	
十五、	定額	
十六、	定額	
十七、	定額	
十八、	定額	
十九、	定額	
二十、	定額	
二十一、	定額	
二十二、	定額	
二十三、	定額	
二十四、	定額	
二十五、	定額	
二十六、	定額	
二十七、	定額	
二十八、	定額	
二十九、	定額	
三十、	定額	
三十一、	定額	
三十二、	定額	
三十三、	定額	
三十四、	定額	
三十五、	定額	
三十六、	定額	
三十七、	定額	
三十八、	定額	
三十九、	定額	
四十、	定額	
四十一、	定額	
四十二、	定額	
四十三、	定額	
四十四、	定額	
四十五、	定額	
四十六、	定額	
四十七、	定額	
四十八、	定額	
四十九、	定額	
五十、	定額	
五十一、	定額	
五十二、	定額	
五十三、	定額	
五十四、	定額	
五十五、	定額	
五十六、	定額	
五十七、	定額	
五十八、	定額	
五十九、	定額	
六十、	定額	
六十一、	定額	
六十二、	定額	
六十三、	定額	
六十四、	定額	
六十五、	定額	
六十六、	定額	
六十七、	定額	
六十八、	定額	
六十九、	定額	
七十、	定額	
七十一、	定額	
七十二、	定額	
七十三、	定額	
七十四、	定額	
七十五、	定額	
七十六、	定額	
七十七、	定額	
七十八、	定額	
七十九、	定額	
八十、	定額	
八十一、	定額	
八十二、	定額	
八十三、	定額	
八十四、	定額	
八十五、	定額	
八十六、	定額	
八十七、	定額	
八十八、	定額	
八十九、	定額	
九十、	定額	
九十一、	定額	
九十二、	定額	
九十三、	定額	
九十四、	定額	
九十五、	定額	
九十六、	定額	
九十七、	定額	
九十八、	定額	
九十九、	定額	
一百、	定額	
一百零一、	定額	
一百零二、	定額	
一百零三、	定額	
一百零四、	定額	
一百零五、	定額	
一百零六、	定額	
一百零七、	定額	
一百零八、	定額	
一百零九、	定額	
一百一十、	定額	
一百一十一、	定額	
一百一十二、	定額	
一百一十三、	定額	
一百一十四、	定額	
一百一十五、	定額	
一百一十六、	定額	
一百一十七、	定額	
一百一十八、	定額	
一百一十九、	定額	
一百二十、	定額	
一百二十一、	定額	
一百二十二、	定額	
一百二十三、	定額	
一百二十四、	定額	
一百二十五、	定額	
一百二十六、	定額	
一百二十七、	定額	
一百二十八、	定額	
一百二十九、	定額	
一百三十、	定額	
一百三十一、	定額	
一百三十二、	定額	
一百三十三、	定額	
一百三十四、	定額	
一百三十五、	定額	
一百三十六、	定額	
一百三十七、	定額	
一百三十八、	定額	
一百三十九、	定額	
一百四十、	定額	
一百四十一、	定額	
一百四十二、	定額	
一百四十三、	定額	
一百四十四、	定額	
一百四十五、	定額	
一百四十六、	定額	
一百四十七、	定額	
一百四十八、	定額	
一百四十九、	定額	
一百五十、	定額	
一百五十一、	定額	
一百五十二、	定額	
一百五十三、	定額	
一百五十四、	定額	
一百五十五、	定額	
一百五十六、	定額	
一百五十七、	定額	
一百五十八、	定額	
一百五十九、	定額	
一百六十、	定額	
一百六十一、	定額	
一百六十二、	定額	
一百六十三、	定額	
一百六十四、	定額	
一百六十五、	定額	
一百六十六、	定額	
一百六十七、	定額	
一百六十八、	定額	
一百六十九、	定額	
一百七十、	定額	
一百七十一、	定額	
一百七十二、	定額	
一百七十三、	定額	
一百七十四、	定額	
一百七十五、	定額	
一百七十六、	定額	
一百七十七、	定額	
一百七十八、	定額	
一百七十九、	定額	
一百八十、	定額	
一百八十一、	定額	
一百八十二、	定額	
一百八十三、	定額	
一百八十四、	定額	
一百八十五、	定額	
一百八十六、	定額	
一百八十七、	定額	
一百八十八、	定額	
一百八十九、	定額	
一百九十、	定額	
一百九十一、	定額	
一百九十二、	定額	
一百九十三、	定額	
一百九十四、	定額	
一百九十五、	定額	
一百九十六、	定額	
一百九十七、	定額	
一百九十八、	定額	
一百九十九、	定額	
二百、	定額	
二百零一、	定額	
二百零二、	定額	
二百零三、	定額	
二百零四、	定額	
二百零五、	定額	
二百零六、	定額	
二百零七、	定額	
二百零八、	定額	
二百零九、	定額	
二百一十、	定額	
二百一十一、	定額	
二百一十二、	定額	
二百一十三、	定額	
二百一十四、	定額	
二百一十五、	定額	
二百一十六、	定額	
二百一十七、	定額	
二百一十八、	定額	
二百一十九、	定額	
二百二十、	定額	
二百二十一、	定額	
二百二十二、	定額	
二百二十三、	定額	
二百二十四、	定額	
二百二十五、	定額	
二百二十六、	定額	
二百二十七、	定額	
二百二十八、	定額	
二百二十九、	定額	
二百三十、	定額	
二百三十一、	定額	
二百三十二、	定額	
二百三十三、	定額	
二百三十四、	定額	
二百三十五、	定額	
二百三十六、	定額	
二百三十七、	定額	
二百三十八、	定額	
二百三十九、	定額	
二百四十、	定額	
二百四十一、	定額	
二百四十二、	定額	
二百四十三、	定額	
二百四十四、	定額	
二百四十五、	定額	
二百四十六、	定額	
二百四十七、	定額	
二百四十八、	定額	
二百四十九、	定額	
二百五十、	定額	
二百五十一、	定額	
二百五十二、	定額	
二百五十三、	定額	
二百五十四、	定額	
二百五十五、	定額	
二百五十六、	定額	
二百五十七、	定額	
二百五十八、	定額	
二百五十九、	定額	
二百六十、	定額	
二百六十一、	定額	
二百六十二、	定額	
二百六十三、	定額	
二百六十四、	定額	
二百六十五、	定額	
二百六十六、	定額	
二百六十七、	定額	
二百六十八、	定額	
二百六十九、	定額	
二百七十、	定額	
二百七十一、	定額	
二百七十二、	定額	
二百七十三、	定額	
二百七十四、	定額	
二百七十五、	定額	
二百七十六、	定額	
二百七十七、	定額	
二百七十八、	定額	
二百七十九、	定額	
二百八十、	定額	
二百八十一、	定額	
二百八十二、	定額	
二百八十三、	定額	
二百八十四、	定額	
二百八十五、	定額	
二百八十六、	定額	
二百八十七、	定額	
二百八十八、	定額	
二百八十九、	定額	
二百九十、	定額	
二百九十一、	定額	
二百九十二、	定額	
二百九十三、	定額	
二百九十四、	定額	
二百九十五、	定額	
二百九十六、	定額	
二百九十七、	定額	
二百九十八、	定額	
二百九十九、	定額	
三百、	定額	
三百零一、	定額	
三百零二、	定額	
三百零三、	定額	
三百零四、	定額	
三百零五、	定額	
三百零六、	定額	
三百零七、	定額	
三百零八、	定額	
三百零九、	定額	
三百一十、	定額	
三百一十一、	定額	
三百一十二、	定額	
三百一十三、	定額	
三百一十四、	定額	
三百一十五、	定額	
三百一十六、	定額	
三百一十七、	定額	
三百一十八、	定額	
三百一十九、	定額	
三百二十、	定額	
三百二十一、	定額	
三百二十二、	定額	
三百二十三、	定額	
三百二十四、	定額	
三百二十五、	定額	
三百二十六、	定額	
三百二十七、	定額	
三百二十八、	定額	
三百二十九、	定額	
三百三十、	定額	
三百三十一、	定額	
三百三十二、	定額	
三百三十三、	定額	
三百三十四、	定額	
三百三十五、	定額	
三百三十六、	定額	
三百三十七、	定額	
三百三十八、	定額	
三百三十九、	定額	
三百四十、	定額	
三百四十一、	定額	
三百四十二、	定額	
三百四十三、	定額	
三百四十四、	定額	
三百四十五、	定額	
三百四十六、	定額	
三百四十七、	定額	
三百四十八、	定額	
三百四十九、	定額	
三百五十、	定額	
三百五十一、	定額	
三百五十二、	定額	
三百五十三、	定額	
三百五十四、	定額	
三百五十五、	定額	
三百五十六、	定額	
三百五十七、	定額	
三百五十八、	定額	
三百五十九、	定額	
三百六十、	定額	
三百六十一、	定額	
三百六十二、	定額	
三百六十三、	定額	
三百六十四、	定額	
三百六十五、	定額	
三百六十六、	定額	
三百六十七、	定額	
三百六十八、	定額	
三百六十九、	定額	
三百七十、	定額	
三百七十一、	定額	
三百七十二、	定額	
三百七十三、	定額	
三百七十四、	定額	
三百七十五、	定額	
三百七十六、	定額	
三百七十七、	定額	
三百七十八、	定額	
三百七十九、	定額	
三百八十、	定額	
三百八十一、	定額	
三百八十二、	定額	
三百八十三、	定額	
三百八十四、	定額	
三百八十五、	定額	
三百八十六、	定額	
三百八十七、	定額	
三百八十八、	定額	
三百八十九、	定額	
三百九十、	定額	
三百九十一、	定額	
三百九十二、	定額	
三百九十三、	定額	
三百九十四、	定額	
三百九十五、	定額	
三百九十六、	定額	
三百九十七、	定額	
三百九十八、	定額	
三百九十九、	定額	
四百、	定額	
四百零一、	定額	
四百零二、	定額	
四百零三、	定額	
四百零四、	定額	
四百零五、	定額	
四百零六、	定額	
四百零七、	定額	
四百零八、	定額	
四百零九、	定額	
四百一十、	定額	
四百一十一、	定額	
四百一十二、	定額	
四百一十三、	定額	
四百一十四、	定額	
四百一十五、	定額	
四百一十六、	定額	
四百一十七、	定額	
四百一十八、	定額	
四百一十九、	定額	
四百二十、	定額	
四百二十一、	定額	
四百二十二、	定額	
四百二十三、	定額	
四百二十四、	定額	
四百二十五、	定額	
四百二十六、	定額	
四百二十七、	定額	
四百二十八、	定額	
四百二十九、	定額	
四百三十、	定額	
四百三十一、	定額	
四百三十二、	定額	
四百三十三、	定額	
四百三十四、	定額	
四百三十五、	定額	
四百三十六、	定額	
四百三十七、	定額	
四百三十八、	定額	
四百三十九、	定額	
四百四十、	定額	
四百四十一、	定額	
四百四十二、	定額	
四百四十三、	定額	
四百四十四、	定額	
四百四十五、	定額	
四百四十六、	定額	
四百四十七、	定額	
四百四十八、	定額	
四百四十九、	定額	
四百五十、	定額	
四百五十一、	定額	
四百五十二、	定額	
四百五十三、	定額	
四百五十四、	定額	
四百五十五、	定額	
四百五十六、	定額	
四百五十七、	定額	
四百五十八、	定額	
四百五十九、	定額	
四百六十、	定額	
四百六十一、	定額	
四百六十二、	定額	
四百六十三、	定額	
四百六十四、	定額	
四百六十五、	定額	
四百六十六、	定額	
四百六十七、	定額	
四百六十八、	定額	
四百六十九、	定額	
四百七十、	定額	
四百七十一、	定額	
四百七十二、	定額	
四百七十三、	定額	
四百七十四、	定額	
四百七十五、	定額	
四百七十六、	定額	
四百七十七、	定額	
四百七十八、	定額	
四百七十九、	定額	
四百八十、	定額	
四百八十一、	定額	
四百八十二、	定額	
四百八十三、	定額	
四百八十四、	定額	
四百八十五、	定額	
四百八十六、	定額	
四百八十七、	定額	
四百八十八、	定額	
四百八十九、	定額	
四百九十、	定額	
四百九十一、	定額	
四百九十二、	定額	
四百九十三、	定額	
四百九十四、	定額	
四百九十五、	定額	
四百九十六、	定額	
四百九十七、	定額	
四百九十八、	定額	
四百九十九、	定額	
五百、	定額	
五百零一、	定額	
五百零二、	定額	
五百零三、	定額	
五百零四、	定額	
五百零五、	定額	
五百零六、	定額	
五百零七、	定額	
五百零八、	定額	
五百零九、	定額	
五百一十、	定額	
五百一十一、	定額	
五百一十二、	定額	
五百一十三、	定額	
五百一十四、	定額	
五百一十五、	定額	
五百一十六、	定額	
五百一十七、	定額	
五百一十八、	定額	
五百一十九、	定額	
五百二十、	定額	
五百二十一、	定額	
五百二十二、	定額	
五百二十三、	定額	
五百二十四、	定額	
五百二十五、	定額	

(2) 不

[illegible]

はしけ敷

[illegible]

上

ひき船歌	(昭和四現在)		三三三	五二	五二	五二
量	三三三	五二	五二	五二	五二	五二
歌	三三三	五二	五二	五二	五二	五二
力	三三三	五二	五二	五二	五二	五二
歌	三三三	五二	五二	五二	五二	五二

で

8 6 3 2 1 0

月

澎湖關係要者		(明記現在)	
種類別	區分	著者數	所屬要具
海灣區盛業	二	八〇〇公噸	宮廷人
海區盛業	二	七〇〇公噸	宮廷人
船舶修業	三	建築 建築 建築	宮廷人
船用品販賣	二	建築	宮廷人
倉庫盛業	二	建築	宮廷人
冷凍盛業	二	建築	宮廷人
加清盛業	二	建築	宮廷人
加清盛業	二	建築	宮廷人

入
船
輪
船

[illegible]

廣島港の船客数

(昭和三十三年)

[illegible]

輸移出入貨物

中國書畫函授大學

[illegible]

治安

昭和二十二年十二月警察法及消防組織法が公布され本市は一月二十七日の市議會に於て公安委員三名を選出た。右三名を同日三十日附廣島市警察改進黨委員に任命。次いで二十三年一月七日事務廳を市役所に置き、右市役所委員會及び廣島市警察廳が改組され、準備期間満了として正式に設置さるべき市警察の內容その儘を履行した。

消防はこの頃廣島消防署に於て同様の準備がなされた。三月七日萬項二法の實施に當り市政上歴史的標準である警察、消防の本市への移管がなされ次いで四月八日市警察、消防兩機關設置が舉行された。

而して兩修管換の治安成績は次表に示すように著しく向上した。

廣州市警察實錄表 (廣州市警察編制 昭和二三、三、現在)

[illegible]

昭和二十三年の各種疾病発生統計の比較（国立市野原局調）

[illegible]

消
防

本市の焼復興は假設住宅（ハックザタ）等が大分分を占める爲、火災回数も多く、加へて消防資材整備も不十分である諸種の障礙に阻まれが全力を傾注して消防使命を果して來た。消防局の関事は消防長以下二四四名であつてその配属は次の通りである。

消防局プロテクション

[illegible]

廣島地方檢察廳(管下全部)成績表(統計)

種別	件數	金額	件數	金額
昭和二十二年	1,400件	1,400,000圓	1,400件	1,400,000圓
昭和二十三年	1,400件	1,400,000圓	1,400件	1,400,000圓
廣島地方裁判所、廣島簡易裁判所所屬表	1,400件	1,400,000圓	1,400件	1,400,000圓
廣島地方裁判所、廣島簡易裁判所所屬表	1,400件	1,400,000圓	1,400件	1,400,000圓

新加坡及馬來半島之理作圖

年次		額月		受理既済未済		調停件数		調停率	
昭和二十二年	10,411	73,511	24,622	77,771	23,332	23.3%			
昭和二十三年	10,411	73,511	24,622	77,771	23,332	23.3%			

消防水利の現況

[illegible]

廣州市火災統計表

[illegible]

昭和二十二年消防団令の施行により本市在來の警防團は同年八月消防團に改組されたが、更に二十三年七月二十四日消防組

災害救助隊

廣州市災害救助對策委員會

非常災害に際して救助その他の救済措置の適切な実施を図るため災害救助の総合計画を制定しこれが推進に當つてゐる。

委員會の事務を處理する爲市役所内に事務局を設けている
廣島市災害救済隊

[illegible][illegible]

織法の制定により道徳を同法に置くこととなつた。國は水火盜
竊に當つて然燈に對している。
その陣營は火災の通りである。

昭和二十三年六月、災害救助法により、納成に着手し、同十一月十六日納成を完了した。

尚その構成は次の通りである。

納成は本額と分納によつて構成されており、除長は専長が當り本額を徴収している、副除長は助役が當り本額徴収を徴収している。

本 部

本部長の下に左の組織がある。

尙その構成は次の通りである。

融は本部と分隊によつて構成されており、隊長は部長が當り、本部部長を兼ねている、副隊長は助役が當り、副本部部長を兼ねている。

本部
本部長の下に左の組織がある。

	總經理	陳瑞祥
	副總經理	李國強
	經理	梁錦榮
	副經理	黃志強
	會計	林建輝
	外務	鄧國強

[illegible]

配水管

(附 117 頁)

[illegible]

年次別月別送水量調

[illegible]

備考 厚位は一〇〇万石とす

廣島市上水道水壓試驗成績表

(論詩與詩學)

[illegible]

給水状況

一、給水戸数及使用水量

[illegible]

備考 (一) 戊昭和二十三年

右の内使用を開始したものは概ね次の通りである。

五〇、〇〇〇

西 部 一 九 〇 六 四 號

機嫌に家屋の移轉が附隨するから計費通り事業が進展しない場合が起るこれら家屋移轉の必要と見られる数は東西合計約九・〇〇〇戸と算せられている。

右の外、換地に大きな困難を伴うものは終戦後の混乱期における相當数の無期建築及び二十年以下の土地で當然買収に歸するもの等が挙げられ、これ等に對しては別途の方策が考究されている。

(1) 道
幹線道路

十五箇年計畫

[illegible]

幹線道路計畫は昭和二十一年十月四日内閣告示によつて定められた方配十萬箇年計畫表によるものである。

近代都市建設に於ける幹線道路計画はバリーの圓型放射式によるものと、京都の長條型式によるものとがあり、本市は地形及び統括調整等の關係上後者を選んだ。即ち本市は北から南へ流れる七つの川によつて分割されたデルタで構成されてゐる。このデルタ地帯を失ふ北に七本、東西に六本の幹線道路によつて連絡し併せて新設道路の擴張をするの事と計畫である。

本市の東部より西部に貫通する青崎——草津間のものが基幹となるもので最も緊要を要する街道である。尙この線は將來國道に指定されている。

[illegible]

[illegible][illegible][illegible]

合	IL1.7	IL1.6	IL1.5	IL1.4	IL1.3	IL1.2
	青 島· 嶗 山	東 營· 大 港	常 營· 煙· 港	營 盤· 煙· 牛	白 島· 牛	二 張· 煙· 大
計	宮 崎	神 戶	京 都	田 原	田 原	芝 罘
100.1	0.0	—	—	—	—	—
100.2	0.0	—	—	—	—	—
100.3	0.0	—	—	—	—	—
100.4	0.0	—	—	—	—	—
100.5	0.0	—	—	—	—	—
100.6	0.0	—	—	—	—	—
100.7	0.0	—	—	—	—	—
100.8	0.0	—	—	—	—	—
100.9	0.0	—	—	—	—	—
100.10	0.0	—	—	—	—	—
100.11	0.0	—	—	—	—	—
100.12	0.0	—	—	—	—	—
100.13	0.0	—	—	—	—	—
100.14	0.0	—	—	—	—	—
100.15	0.0	—	—	—	—	—
100.16	0.0	—	—	—	—	—
100.17	0.0	—	—	—	—	—
100.18	0.0	—	—	—	—	—
100.19	0.0	—	—	—	—	—
100.20	0.0	—	—	—	—	—
100.21	0.0	—	—	—	—	—
100.22	0.0	—	—	—	—	—
100.23	0.0	—	—	—	—	—
100.24	0.0	—	—	—	—	—
100.25	0.0	—	—	—	—	—
100.26	0.0	—	—	—	—	—
100.27	0.0	—	—	—	—	—
100.28	0.0	—	—	—	—	—
100.29	0.0	—	—	—	—	—
100.30	0.0	—	—	—	—	—
100.31	0.0	—	—	—	—	—
100.32	0.0	—	—	—	—	—
100.33	0.0	—	—	—	—	—
100.34	0.0	—	—	—	—	—
100.35	0.0	—	—	—	—	—
100.36	0.0	—	—	—	—	—
100.37	0.0	—	—	—	—	—
100.38	0.0	—	—	—	—	—
100.39	0.0	—	—	—	—	—
100.40	0.0	—	—	—	—	—
100.41	0.0	—	—	—	—	—
100.42	0.0	—	—	—	—	—
100.43	0.0	—	—	—	—	—
100.44	0.0	—	—	—	—	—
100.45	0.0	—	—	—	—	—
100.46	0.0	—	—	—	—	—
100.47	0.0	—	—	—	—	—
100.48	0.0	—	—	—	—	—
100.49	0.0	—	—	—	—	—
100.50	0.0	—	—	—	—	—
100.51	0.0	—	—	—	—	—
100.52	0.0	—	—	—	—	—
100.53	0.0	—	—	—	—	—
100.54	0.0	—	—	—	—	—
100.55	0.0	—	—	—	—	—
100.56	0.0	—	—	—	—	—
100.57	0.0	—	—	—	—	—
100.58	0.0	—	—	—	—	—
100.59	0.0	—	—	—	—	—
100.60	0.0	—	—	—	—	—
100.61	0.0	—	—	—	—	—

(四) 補助道路
區劃整理に於て決定せられた現在の補助道路は次の通りである。

東部延長
西部延長

六二四五—米
九〇七〇—米

西部延長

九〇七〇〇米

幅員は十五米より六米迄であり、豫備道路である四米道路が何かに包含されている。

橘
雙

本市の大きな橋脚三十九の内、二十一は木造である。これ等木橋を永久的な橋に架け代える計画が前述の参議道路と並行して十五箇年事業として樹立されている。

昭和二十年の二度に渡る未曾有の水害によつて破損消失した

廣州市內橋梁一覽表

(附三) 二本現在

[illegible]

[illegible]

川	月乎山
西大橋	旭邑豊
式、X線一 式O×形入セ	式、X線二 式、X線三 式、X線四空
水害三河國縣佐下	風水害急雨激突
工事中	二一二三
組織カンパニー・純組花	組織カンパニー・純組花
三月十五日午後十時迄	水害

備考 本説は市内に於ける主要橋梁である

公園と緑地

市民文化が向上し人口が稠密になるにつれて市民の地位向上と子供の養育の必要が増大する。

而かも本市を全國の模範都市とするためには、都市の美化の見地からも公園と緑地の新設が前述の通り復興計画に織込まれたのは當然のことであろう。

計	大英國 小英國	區劃計畫			合 計
		區劃 區數	區劃 面積	區劃 人口	
計	大英國 小英國	區劃 區數	區劃 面積	區劃 人口	合 計

雄略は横して、市を縫つて流れる七瀬川の兩岸に沿つて設けられる計装である。

公園は大公園を三個所に配し、小公園を市内隨所に設ける。前者は、後者は主として無元民の利用に供されるが、前者は本市にとつて大々特殊の意義を有するものであつて全體的な行事に

料同する決定である。大公開の計画概要は次の通りである。

- 度、中央公園を中心とし基町元町間取約二十餘萬坪を畫て運動場、球場及び文化館に於ける代表的施設を備へる計畫である。現在在の市民広場等は、この公園内の代表的施設の一部である。現行の元町停車場敷地に對し、國庫預金に對する將來の建設工事を急いでいる。今一つの代表的施設である兒童文化館の中核である大ホールも本年秋に完成を見た。
- (4) 東公園は元東園共場内に中央公園に次ぎ六萬坪に亘つて建する計畫である。
- (5) 中島公園は平和の記念公園として爆心地より約一、二キロ離れた中島町に三萬餘坪を以て建設される計畫である。平和塔を中心とし、

心として、平和に關する凡ゆる施設を此處に集め、併せて貧
困等が作られる決定である。而して本市の代表同行事であ
る平和祭はこの地に於て行われている。

尙現在は比叡山、江波、大芝等に公園があり兩縣管下に成島縣聯合ランドがある。

廣島市の一世帯當り生活費

(經理巡訓)

[illegible]

宣和年表

昭和二十二年七月分 四、八九七圓

九月分 四、五、四

豊平を含む

豊年を含む

勞職員平均給與

（産工會定期調査）

[illegible]

調査市内各業種別の主要工場五十箇所に付て調査す

主食の配給状況は昨年より良好であつた。昨年は欠配が十三日分あつたが本年は満配であり常に早目に配給を受ける状態になり十一月一日より二合七勺に増配された。

又砂咽及び腸結が主食として配給された。

又砂鹽及び鹽漬が主食として配給された。

又砂鹽及び鹽漬が主食として配給された。

主食配給状況

[illegible]

生活費比較表

向本市と六大都市との比較は左の通りである

(四) 經理調查

部 市 名	期 限	開 閉 期	開 閉 期
廣 東	2.20.11	2.20.11	2.20.11
京 京	2.21.11	2.21.11	2.21.11
廣 西	2.22.11	2.22.11	2.22.11
雲 南	2.23.11	2.23.11	2.23.11
貴 州	2.24.11	2.24.11	2.24.11
湖 北	2.25.11	2.25.11	2.25.11
江 蘇	2.26.11	2.26.11	2.26.11
浙 江	2.27.11	2.27.11	2.27.11
安 徽	2.28.11	2.28.11	2.28.11
江 西	2.29.11	2.29.11	2.29.11
山 東	2.30.11	2.30.11	2.30.11
河 南	3.1.11	3.1.11	3.1.11
湖 南	3.2.11	3.2.11	3.2.11
廣 東	3.3.11	3.3.11	3.3.11
廣 西	3.4.11	3.4.11	3.4.11
雲 南	3.5.11	3.5.11	3.5.11
貴 州	3.6.11	3.6.11	3.6.11
湖 北	3.7.11	3.7.11	3.7.11
江 蘇	3.8.11	3.8.11	3.8.11
浙 江	3.9.11	3.9.11	3.9.11
安 徽	3.10.11	3.10.11	3.10.11
江 西	3.11.11	3.11.11	3.11.11
山 東	3.12.11	3.12.11	3.12.11
河 南	3.13.11	3.13.11	3.13.11
湖 南	3.14.11	3.14.11	3.14.11
廣 東	3.15.11	3.15.11	3.15.11
廣 西	3.16.11	3.16.11	3.16.11
雲 南	3.17.11	3.17.11	3.17.11
貴 州	3.18.11	3.18.11	3.18.11
湖 北	3.19.11	3.19.11	3.19.11
江 蘇	3.20.11	3.20.11	3.20.11
浙 江	3.21.11	3.21.11	3.21.11
安 徽	3.22.11	3.22.11	3.22.11
江 西	3.23.11	3.23.11	3.23.11
山 東	3.24.11	3.24.11	3.24.11
河 南	3.25.11	3.25.11	3.25.11
湖 南	3.26.11	3.26.11	3.26.11
廣 東	3.27.11	3.27.11	3.27.11
廣 西	3.28.11	3.28.11	3.28.11
雲 南	3.29.11	3.29.11	3.29.11
貴 州	3.30.11	3.30.11	3.30.11
湖 北	3.31.11	3.31.11	3.31.11
江 蘇	4.1.11	4.1.11	4.1.11
浙 江	4.2.11	4.2.11	4.2.11
安 徽	4.3.11	4.3.11	4.3.11
江 西	4.4.11	4.4.11	4.4.11
山 東	4.5.11	4.5.11	4.5.11
河 南	4.6.11	4.6.11	4.6.11
湖 南	4.7.11	4.7.11	4.7.11
廣 東	4.8.11	4.8.11	4.8.11
廣 西	4.9.11	4.9.11	4.9.11
雲 南	4.10.11	4.10.11	4.10.11
貴 州	4.11.11	4.11.11	4.11.11
湖 北	4.12.11	4.12.11	4.12.11
江 蘇	4.13.11	4.13.11	4.13.11
浙 江	4.14.11	4.14.11	4.14.11
安 徽	4.15.11	4.15.11	4.15.11
江 西	4.16.11	4.16.11	4.16.11
山 東	4.17.11	4.17.11	4.17.11
河 南	4.18.11	4.18.11	4.18.11
湖 南	4.19.11	4.19.11	4.19.11
廣 東	4.20.11	4.20.11	4.20.11
廣 西	4.21.11	4.21.11	4.21.11
雲 南	4.22.11	4.22.11	4.22.11
貴 州	4.23.11	4.23.11	4.23.11
湖 北	4.24.11	4.24.11	4.24.11
江 蘇	4.25.11	4.25.11	4.25.11
浙 江	4.26.11	4.26.11	4.26.11
安 徽	4.27.11	4.27.11	4.27.11
江 西	4.28.11	4.28.11	4.28.11
山 東	4.29.11	4.29.11	4.29.11
河 南	4.30.11	4.30.11	4.30.11
湖 南	4.31.11	4.31.11	4.31.11
廣 東	5.1.11	5.1.11	5.1.11
廣 西	5.2.11	5.2.11	5.2.11
雲 南	5.3.11	5.3.11	5.3.11
貴 州	5.4.11	5.4.11	5.4.11
湖 北	5.5.11	5.5.11	5.5.11
江 蘇	5.6.11	5.6.11	5.6.11
浙 江	5.7.11	5.7.11	5.7.11
安 徽	5.8.11	5.8.11	5.8.11
江 西	5.9.11	5.9.11	5.9.11
山 東	5.10.11	5.10.11	5.10.11
河 南	5.11.11	5.11.11	5.11.11
湖 南	5.12.11	5.12.11	5.12.11
廣 東	5.13.11	5.13.11	5.13.11
廣 西	5.14.11	5.14.11	5.14.11
雲 南	5.15.11	5.15.11	5.15.11
貴 州	5.16.11	5.16.11	5.16.11
湖 北	5.17.11	5.17.11	5.17.11
江 蘇	5.18.11	5.18.11	5.18.11
浙 江	5.19.11	5.19.11	5.19.11
安 徽	5.20.11	5.20.11	5.20.11
江 西	5.21.11	5.21.11	5.21.11
山 東	5.22.11	5.22.11	5.22.11
河 南	5.23.11	5.23.11	5.23.11
湖 南	5.24.11	5.24.11	5.24.11
廣 東	5.25.11	5.25.11	5.25.11
廣 西	5.26.11	5.26.11	5.26.11
雲 南	5.27.11	5.27.11	5.27.11
貴 州	5.28.11	5.28.11	5.28.11
湖 北	5.29.11	5.29.11	5.29.11
江 蘇	5.30.11	5.30.11	5.30.11
浙 江	5.31.11	5.31.11	5.31.11
安 徽	6.1.11	6.1.11	6.1.11
江 西	6.2.11	6.2.11	6.2.11
山 東	6.3.11	6.3.11	6.3.11
河 南	6.4.11	6.4.11	6.4.11
湖 南	6.5.11	6.5.11	6.5.11
廣 東	6.6.11	6.6.11	6.6.11
廣 西	6.7.11	6.7.11	6.7.11
雲 南	6.8.11	6.8.11	6.8.11
貴 州	6.9.11	6.9.11	6.9.11
湖 北	6.10.11	6.10.11	6.10.11
江 蘇	6.11.11	6.11.11	6.11.11
浙 江	6.12.11	6.12.11	6.12.11
安 徽	6.13.11	6.13.11	6.13.11
江 西	6.14.11	6.14.11	6.14.11
山 東	6.15.11	6.15.11	6.15.11
河 南	6.16.11	6.16.11	6.16.11
湖 南	6.17.11	6.17.11	6.17.11
廣 東	6.18.11	6.18.11	6.18.11
廣 西	6.19.11	6.19.11	6.19.11
雲 南	6.20.11	6.20.11	6.20.11
貴 州	6.21.11	6.21.11	6.21.11
湖 北	6.22.11	6.22.11	6.22.11
江 蘇	6.23.11	6.23.11	6.23.11
浙 江	6.24.11	6.24.11	6.24.11
安 徽	6.25.11	6.25.11	6.25.11
江 西	6.26.11	6.26.11	6.26.11
山 東	6.27.11	6.27.11	6.27.11
河 南	6.28.11	6.28.11	6.28.11
湖 南	6.29.11	6.29.11	6.29.11
廣 東	6.30.11	6.30.11	6.30.11
廣 西	7.1.11	7.1.11	7.1.11
雲 南	7.2.11	7.2.11	7.2.11
貴 州	7.3.11	7.3.11	7.3.11
湖 北	7.4.11	7.4.11	7.4.11
江 蘇	7.5.11	7.5.11	7.5.11
浙 江	7.6.11	7.6.11	7.6.11
安 徽	7.7.11	7.7.11	7.7.11
江 西	7.8.11	7.8.11	7.8.11
山 東	7.9.11	7.9.11	7.9.11
河 南	7.10.11	7.10.11	7.10.11
湖 南	7.11.11	7.11.11	7.11.11
廣 東	7.12.11	7.12.11	7.12.11
廣 西	7.13.11	7.13.11	7.13.11
雲 南	7.14.11	7.14.11	7.14.11
貴 州	7.15.11	7.15.11	7.15.11
湖 北	7.16.11	7.16.11	7.16.11
江 蘇	7.17.11	7.17.11	7.17.11
浙 江	7.18.11	7.18.11	7.18.11
安 徽	7.19.11	7.19.11	7.19.11
江 西	7.20.11	7.20.11	7.20.11
山 東	7.21.11	7.21.11	7.21.11
河 南	7.22.11	7.22.11	7.22.11
湖 南	7.23.11	7.23.11	7.23.11
廣 東	7.24.11	7.24.11	7.24.11
廣 西	7.25.11	7.25.11	7.25.11
雲 南	7.26.11	7.26.11	7.26.11
貴 州	7.27.11	7.27.11	7.27.11
湖 北	7.28.11	7.28.11	7.28.11
江 蘇	7.29.11	7.29.11	7.29.11
浙 江	7.30.11	7.30.11	7.30.11
安 徽	7.31.11	7.31.11	7.31.11
江 西	8.1.11	8.1.11	8.1.11
山 東	8.2.11	8.2.11	8.2.11
河 南	8.3.11	8.3.11	8.3.11
湖 南	8.4.11	8.4.11	8.4.11
廣 東	8.5.11	8.5.11	8.5.11
廣 西	8.6.11	8.6.11	8.6.11
雲 南	8.7.11	8.7.11	8.7.11
貴 州	8.8.11	8.8.11	8.8.11
湖 北	8.9.11	8.9.11	8.9.11
江 蘇	8.10.11	8.10.11	8.10.11
浙 江	8.11.11	8.11.11	8.11.11
安 徽	8.12.11	8.12.11	8.12.11
江 西	8.13.11	8.13.11	8.13.11
山 東	8.14.11	8.14.11	8.14.11
河 南	8.15.11	8.15.11	8.15.11
湖 南	8.16.11	8.16.11	8.16.11
廣 東	8.17.11	8.17.11	8.17.11
廣 西	8.18.11	8.18.11	8.18.11
雲 南	8.19.11	8.19.11	8.19.11
貴 州	8.20.11	8.20.11	8.20.11
湖 北	8.21.11	8.21.11	8.21.11
江 蘇	8.22.11	8.22.11	8.22.11
浙 江	8.23.11	8.23.11	8.23.11
安 徽	8.24.11	8.24.11	8.24.11
江 西	8.25.11	8.25.11	8.25.11
山 東	8.26.11	8.26.11	8.26.11
河 南	8.27.11	8.27.11	8.27.11
湖 南	8.28.11	8.28.11	8.28.11
廣 東	8.29.11	8.29.11	8.29.11
廣 西	8.30.11	8.30.11	8.30.11
雲 南	8.31.11	8.31.11	8.31.11
貴 州	9.1.11	9.1.11	9.1.11
湖 北	9.2.11	9.2.11	9.2.11
江 蘇	9.3.11	9.3.11	9.3.11
浙 江	9.4.11	9.4.11	9.4.11
安 徽	9.5.11	9.5.11	9.5.11
江 西	9.6.11	9.6.11	9.6.11
山 東	9.7.11	9.7.11	9.7.11
河 南	9.8.11	9.8.11	9.8.11
湖 南	9.9.11	9.9.11	9.9.11
廣 東	9.10.11	9.10.11	9.10.11
廣 西	9.11.11	9.11.11	9.11.11
雲 南	9.12.11	9.12.11	9.12.11
貴 州	9.13.11	9.13.11	9.13.11
湖 北	9.14.11	9.14.11	9.14.11
江 蘇	9.15.11	9.15.11	9.15.11
浙 江	9.16.11	9.16.11	9.16.11
安 徽	9.17.11	9.17.11	9.17.11
江 西	9.18.11	9.18.11	9.18.11
山 東	9.19.11	9.19.11	9.19.11
河 南	9.20.11	9.20.11	9.20.11
湖 南	9.21.11	9.21.11	9.21.11
廣 東	9.22.11	9.22.11	9.22.11
廣 西	9.23.11	9.23.11	9.23.11
雲 南	9.24.11	9.24.11	9.24.11
貴 州	9.25.11	9.25.11	9.25.11
湖 北	9.26.11	9.26.11	9.26.11
江 蘇	9.27.11	9.27.11	9.27.11
浙 江	9.28.11	9.28.11	9.28.11
安 徽	9.29.11	9.29.11	9.29.11
江 西	9.30.11	9.30.11	9.30.11
山 東	10.1.11	10.1.11	10.1.11
河 南	10.2.11	10.2.11	10.2.11
湖 南	10.3.11	10.3.11	10.3.11
廣 東	10.4.11	10.4.11	10.4.11
廣 西	10.5.11	10.5.11	10.5.11
雲 南	10.6.11	10.6.11	10.6.11
貴 州	10.7.11	10.7.11	10.7.11
湖 北	10.8.11	10.8.11	10.8.11
江 蘇	10.9.11	10.9.11	10.9.11
浙 江	10.10.11	10.10.11	10.10.11
安 徽	10.11.11	10.11.11	10.11.11
江 西	10.12.11	10.12.11	10.12.11
山 東	10.13.11	10.13.11	10.13.11
河 南	10.14.11	10.14.11	10.14.11
湖 南	10.15.11	10.15.11	10.15.11
廣 東	10.16.11	10.16.11	10.16.11
廣 西	10.17.11	10.17.11	10.17.11
雲 南	10.18.11	10.18.11	10.18.11
貴 州	10.19.11	10.19.11	10.19.11
湖 北	10.20.11	10.20.11	10.20.11
江 蘇	10.21.11	10.21.11	10.21.11
浙 江	10.22.11	10.22.11	10.22.11
安 徽	10.23.11	10.23.11	10.23.11
江 西	10.24.11	10.24.11	10.24.11
山 東	10.25.11	10.25.11	10.25.11
河 南	10.26.11	10.26.11	10.26.11
湖 南	10.27.11	10.27.11	10.27.11
廣 東	10.28.11	10.28.11	10.28.11
廣 西	10.29.11	10.29.11	10.29.11
雲 南	10.30.11	10.30.11	10.30.11
貴 州	10.31.11	10.31.11	10.31.11
湖 北	11.1.11	11.1.11	11.1.11
江 蘇	11.2.11	11.2.11	11.2.11
浙 江	11.3.11		

九八

附屬品として市内の各種業者はその機能の大半を失つた結果、市民の大部分が失業し、不能なる職業を一時の糧口を求めてゐる光景が此等では強烈に映し出されて見られる。この現狀で遂つて産業の保護と共に投機に事象である収入のある職業を廻す傾向に移行した。

これを如實に表はすものとして農林公共職業安定所を通じての求人、求職及び就職の統計が極めて特徴づいてゐる。

産業別	求人	求職	就職
農 業	133(140)	136(140)	133(139)
水 産 業	16(1)	16(→)	16(→)
林 業	17(200)	22(60)	11(100)
運輸通信業	177(200)	177(200)	177(200)
電気業	177(200)	177(200)	177(200)
工業	177(200)	177(200)	177(200)
商業	177(200)	177(200)	177(200)
山 業	177(200)	177(200)	177(200)
公務員団体	177(200)	177(200)	177(200)
交通電気水道業	177(200)	177(200)	177(200)
衛生業	177(200)	177(200)	177(200)
金融業	177(200)	177(200)	177(200)
個人サービス業	177(200)	177(200)	177(200)
その他業	177(200)	177(200)	177(200)
計	177(200)	177(200)	177(200)

市民の日常生活に關係の深い配給等の事務は町内會議止と共に出張所によつて取扱われることとなり昭和二十三年六月、十八ヶ所の出張所が設けられた。その後市の事務は次々と出張所

年月日	求	求	放
昭和六年	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
昭和七年一月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
一月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
二月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
三月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
四月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
五月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
六月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
七月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
八月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
九月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
十月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
十一月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ
十二月	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ	イ、ロ、ハ、ニ、ホ

に修習された。他府町民との諸種の接觸の面に於て現在重要な存在となつて來た。

一、聯入系	八、〇六一
二、聯出系	三七、〇九六
三、居住費	九、五〇六
四、無所附費	一五、三一九
五、食糧消費	一〇、六七三
六、火葬回送	一、六九六
七、その他	一一、五〇〇
合計	一四八、〇〇六

備考 この條には陸國通船、鐵道運賃及び、郵便貯金儲蓄行、民衆銀行、
死亡、遺失、遺棄、病弱、貧乏、救済、養育院、養育費、及、助産用費、資本、
川船に於て無償の受仕を含む。

當時實際に設置した同施設は、事務の擴張と地元の要望によつて十
四年前の建設が進められずに全閉時、赤町、三條の三箇事業が
新設された。

市內娛樂施設一覽

遊樂場及びラジオの聴取狀況

[illegible]

り終つたる唐鐘祠宗社建築工畢入母屋蓋で「見録會圓亭寺合殿を大きくした様なもので堂司時代御宗建築の偉作の一に数へられてゐる。

頼山陽文徳殿

比治山公園の山腹に在り、頼山陽の百年祭を記念するため比治山公園の事業として計畫し山陽文徳殿建設賛賛會の努力により完成、昭和九年十月十五日の竣工である。

頼家の墓頼山陽の父春永を初め頼家一門の墓は比治山公園多期院附近にある。

千田廟と千田男爵銅像

往年日本の大支那として名聞のあつた宇品港は明治十七年、一時の暴令千田貞親によつて竣工せられ工費三十餘萬圓五十年の歳月を経て完成した。その後四年日清戦役終戦と共にこの宇品港は一躍重要基地として國運の進展に寄與して來たのである。市民は千田縣令の偉大なる業績を偲び大正四年宇品町御幸通りの中矢に高く廣島灣の海抜を望んで銅像を建立し後に千田廟を祀り毎年四月盛大なる千田祭を執行して來たのである。

附

録

名	稱	所在地
遼寧省中國西南地方建設局		盤町
々 鐵道工事々事務所		基町
々 農林工事事務所		朝木町
遼寧土木出張所		基町
遼寧地方經濟安定局		霞町
遼寧地方物資管理處		霞町
遼寧省銀行經濟調查部		々
遼寧地方經濟調查處		宇島町
遼寧製鹽		霞町
遼寧市役所		國華寺町
遼寧管林署		基町
遼寧財務局		霞町
遼寧市稅務署		霞町
遼寧國稅署		々
遼寧糧食支所		宇島町
遼寧商港裁判所		基町
遼寧地方裁判所		基町
遼寧勸業裁判所		々

[illegible]

日本文化平和協會	萬町
廣島兒童國民文化協會	本國通月見月堂
廣島兒童文化會館	萬町
廣島ア・ヴァ・ア協會	延川町
廣島縣田原文化協會	上堀川町(國ビル内)
萬年俱樂部(中野本郡)	飲養町
廣島親子婦美術協會	中島本町
F F D協會(中國探洞支隊)	十日町町
廣島市青年文化化連盟	小町
廣島縣帶曲文化協會	小町(舊海軍俱樂部)
廣島市青年連合會	市役所内
廣島校訓科務協會	八丁堀
廣島學堂科學研究所	萬町
民主主義科學者協會	帝國電氣四階
公園計劃會	萬千田町
中國觀覽教育聯盟	磯原町
廣島給食美術協會	磯原町
廣島建設青年團研究所	豐原町
廣島教育官團協會	榮町
廣島映画連盟	宇品町
觀光協會	基町(商工會議所)

農島ヨロイ会 愛島郡ヤエスギト	少年隊十歩	新日本青年會 二世コンチー農島	YMCA YMCA YMCA	佛教聯合會 農島經濟救済團	天理文化の地 生活實踐會	農島總務生活研究會 西國四時人俱樂部	農島のトラース社 晚鐘社	言靈社 銀座會	眞樹社	新日本歌人會 農島新聞研究會
比治山本町 慶宿町	千田町奉子亭社内 中野町青年會館	下柳町 古賀町萬福 鶴屋町免道會館内	○ ○	○ ○	八丁橋 東白鳥町 千田町	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	上総川町救護同内

花柳茂編舞踊研究會	八丁堀區世屋ヶ内 横濱町
廣島舞會	三鷹川町
日本華道研究會	皆賀町
華道舞踊研究會	已藤本町
廣島詩人協會	栗町

市	縣	所 在 地
國島プレーボール協會 國島市職球協會 廣島市軟式蹴球連盟 國府市軟式フットボール協會 國島市陸上競技連盟 國島市軟式野球連盟 廣島ユウケイ協會 廣島縣足球協會 廣島市足球協會 國島山崎スノー地類 國島市林青協會	八丁畑 吉岡町吉岡小學校 今岡町 一丁退屈屋ビル 西瀬町町 市役所社會教育課 赤城町電報局 大平町 段原中町 市役所社會教育課	

事業所名	所在地	從該島縣
藤野樹園株式會社 第一赤松製煉糖及合股農具支店 日本通運株式會社農具支店	葛飾郡町 西雙院町	一九六 二一六
金剛糖粉公司興農具支店 興農具手工藝株式會社 興農具定株式會社大洲製糖所 中國通運株式會社興農具製作所	桐木町 大洲町	一四八 二四七
中野工務株式會社 中野工業株式會社	山手町 音賀町	一一六 一〇八
興農貨物自體大株式會社 日本通運株式會社興農具支店 株式會社興農具製作所	宇田町 仁保町會館島 八丁堀	一〇七 一〇九 一三三
株式會社水野山粉製農具工場 清水建設株式會社興農具支店 株式會社福屋 新團住人日本製鐵協會 肥前島商會事務局	上野川町	一九一 二三四

青島會社中國銀行社	〇	四一八
日本實業株式會社中國支店	〇	四二二
廣島電機株式會社	〇	二五二
株式會社山田興業支店	〇	二四
平和生命保險株式會社廣島支店	〇	一〇一
株式會社大林建設支店	〇	一二七
株式會社信託銀行	〇	三〇
日本銀行廣島支店	〇	一六一
中國電報株式會社	〇	五〇三
廣島支店	〇	二〇六
〇 東營藥房	〇	一五七
〇 四營藥房	〇	一三四
中國藥料株式會社	〇	一二八
三栄製粉株式會社	〇	一九四
株式會社廣島工業	〇	一四七
旭東製粉株式會社	〇	一四二
廣島印刷株式會社	〇	三五四
三澤重工業株式會社廣島印刷所	〇	四五一
高橋製針會社	〇	一四三
大和工業株式會社	〇	一〇八
廣島日産自來水株式會社	〇	一二八

日本實業株式會社已製支店
廣島市各埠較強工場及同業會
備考 (一、本表は會社名及び所在地の事であらう)

已製町
也午北町

二二五
一四七



昭和二十四年一月二十日 印刷
昭和二十四年一月二十五日 發行 (津賣品)

發行所 廣島市役所

印刷者 坂本健順

印刷所 廣島市比治山町八九
社團法人廣島文化社

